

## 第5章

### 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

(要支援者調査結果)



## 第5章 要支援者調査結果

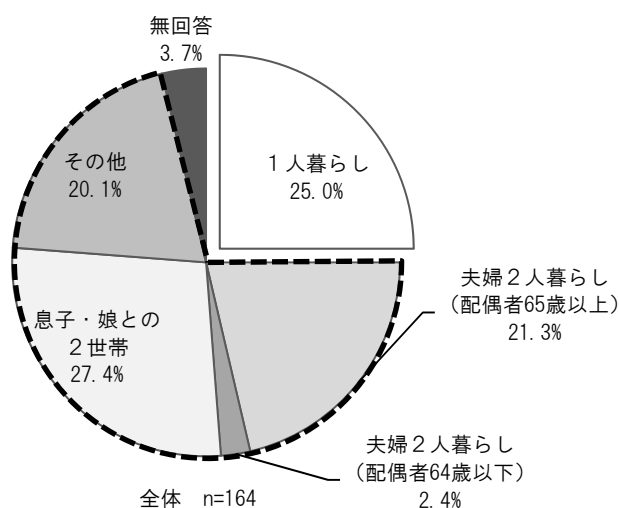
### 1 あなたのご家族や生活状況について

#### (1) 家族構成及び日中独居者の状況

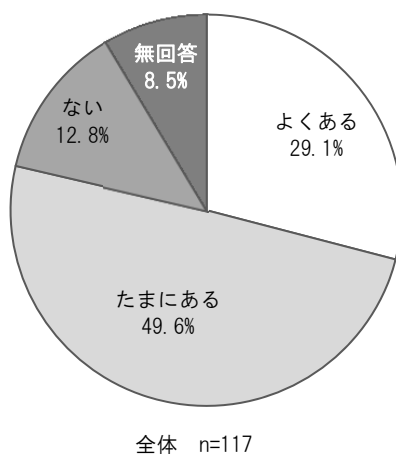
○要支援者の家族構成をみると、「息子・娘との2世帯」(27.4%)が最も高く、次いで「1人暮らし」(25.0%)、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(21.3%)の順となっています。

○日中に1人になることの有無は、「たまにある」(49.6%)が最も高く、「よくある」(29.1%)を合わせた約8割が、日中に1人になることがあると回答しています。

問1-(1) 家族構成



問1-(1).① 日中、1人になることの有無



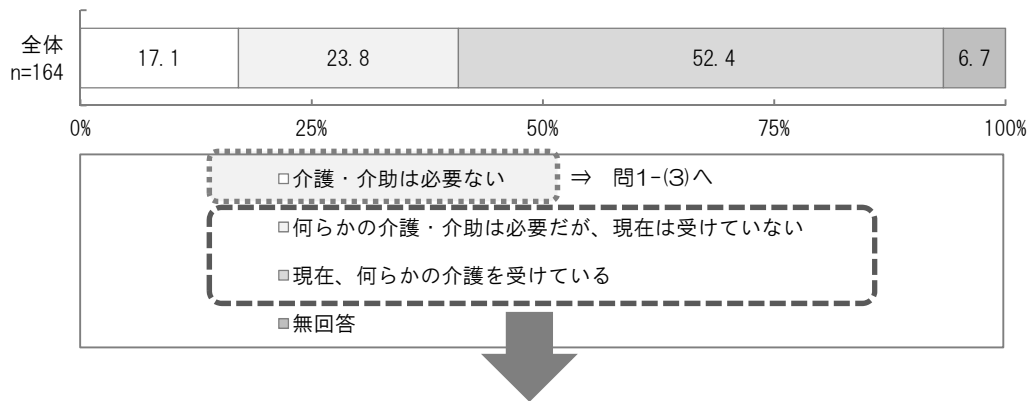
## (2) 日常生活における介護（介助）の状況

○要支援者の普段の生活における介護・介助の状況をみると、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」（52.4%）が最も高く、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」（23.8%）を合わせた76.2%が介護・介助が必要と回答しています。

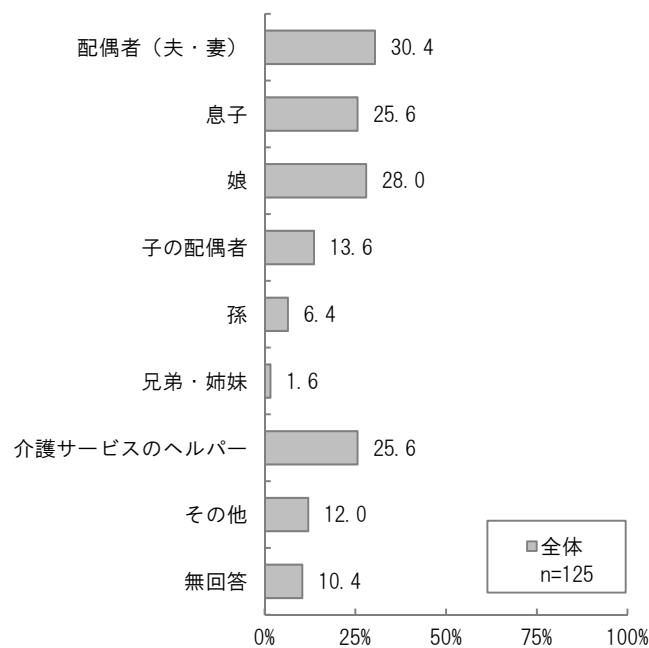
○介護・介助をしてくれる人は、「配偶者（夫・妻）」（30.4%）が最も高く、次いで「娘」（28.0%）、「息子」「介護サービスのヘルパー」（各25.6%）、「子の配偶者」（13.6%）の順となっています。

○介護・介助が必要になった主な原因は、「高齢による衰弱」（28.0%）が最も高く、次いで「骨折・転倒」（27.2%）、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」（16.8%）、「糖尿病」「視覚・聴覚障害」（各11.2%）、「心臓病」（10.4%）の順となっています。

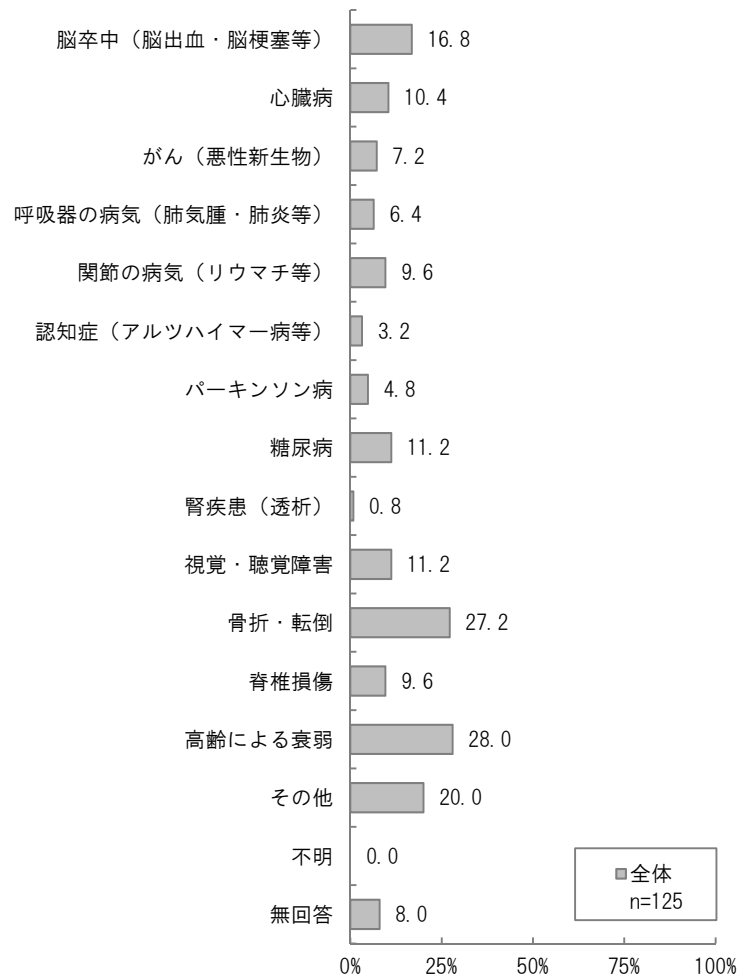
問1-(2) 普段の生活で介護・介助が必要か



問1-(2).② 介護・介助をしてきている人



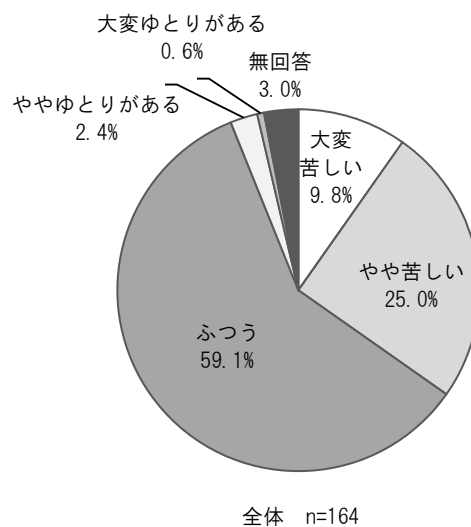
問1-(2).① 介護・介助が必要になった主な原因



(3) 現在の経済状況

○要支援者の現在の暮らしの経済状況をみると、「ふつう」（59.1%）が最も高く、次いで「やや苦しい」（25.0%）、「大変苦しい」（9.8%）の順となっています。

問1-(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみて

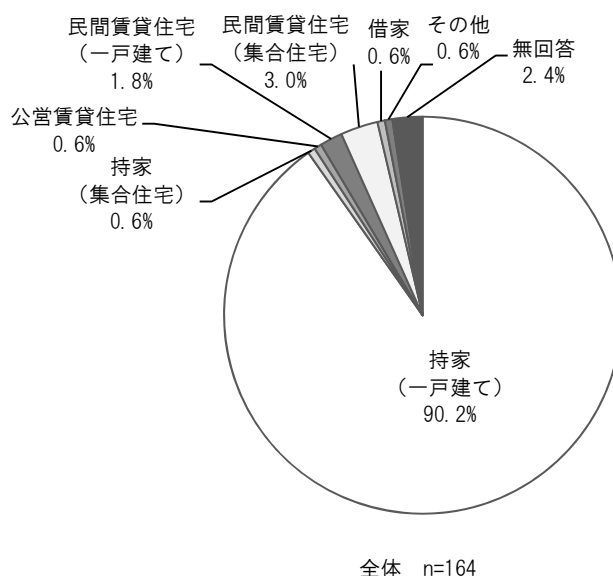


#### (4) 現在の居住環境

○要支援者の現在の暮らしている家の状況を見ると、「持家（一戸建て）」（90.2%）が最も高くなっています。

○居住環境（部屋）が2階以上にあると回答した方は 15.2%となっており、そのうちの84.0%はエレベーターが未設置であると回答しています。

問1-(4) 現在の暮らしている家の状況



問 1-(5) 2階以上に生活する部屋があるか

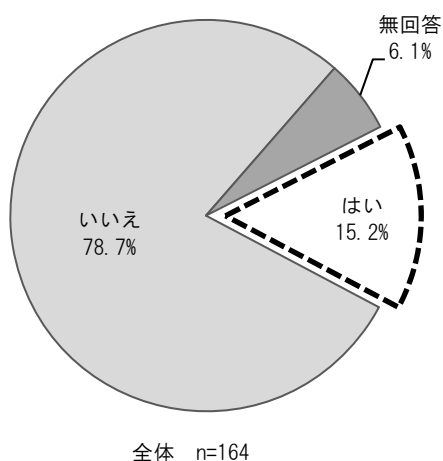
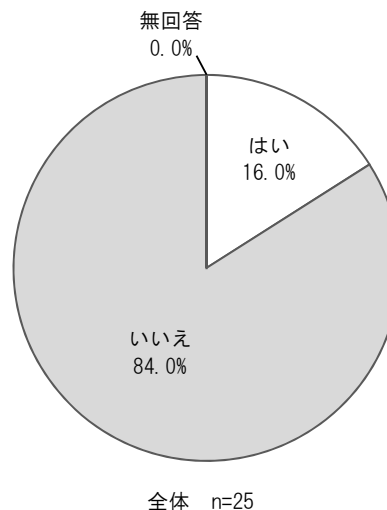


図 1-(5). ① エレベーター設置の有無



## 2 からだを動かすことについて

### (1) 運動機能の状況

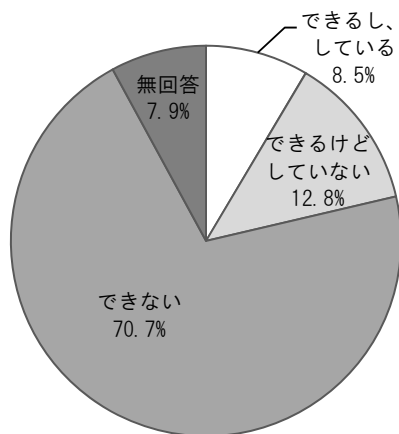
○要支援者の階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるかでは、「できない」方は70.7%となっています。

○椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができるかでは、「できない」方が57.9%となっています。

○15分位続けて歩くことができるかでは、「できない」方が57.9%となっています。

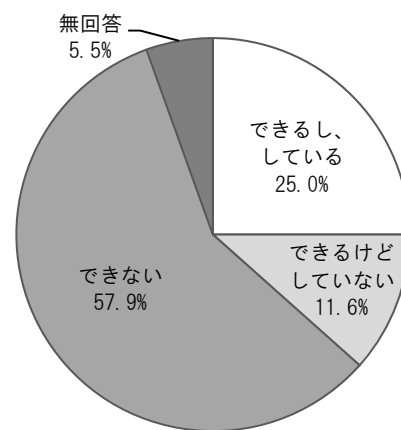
○過去1年間に転んだ経験の有無では、「何度もある」(26.8%)と「1度ある」(32.3%)を合わせた59.1%の方が転んだ経験があると回答しています。

問2-(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるか



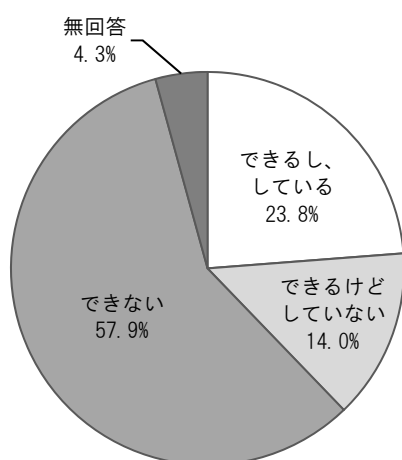
全体 n=164

問2-(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができるか



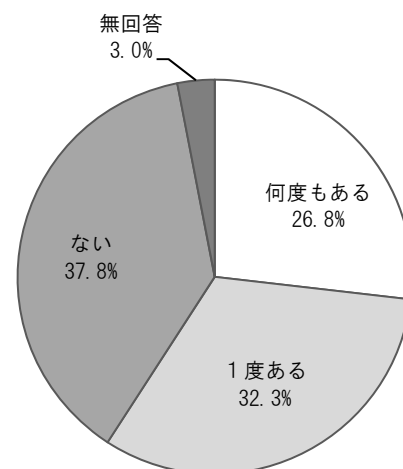
全体 n=164

問2-(3) 15分位続けて歩くことができるか



全体 n=164

問2-(4) 過去1年間に転んだ経験の有無



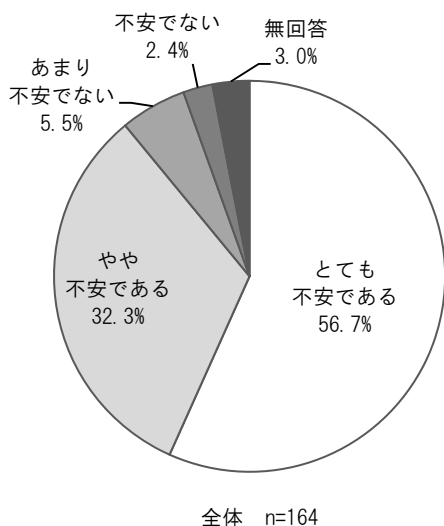
全体 n=164

○要支援者の転倒に対する不安の有無では、「とても不安である」(56.7%)と「やや不安である」(32.3%)を合わせた89.0%の方が不安を感じています。

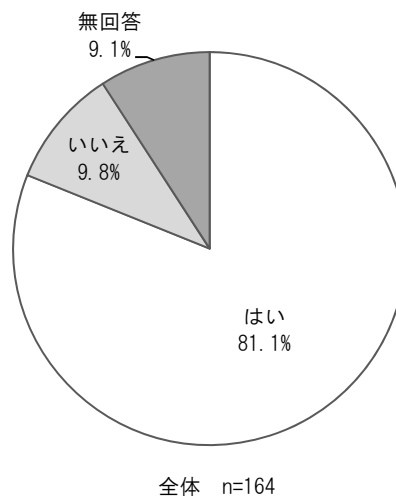
○以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思うかでは、「はい」の方が81.1%となっています。

○杖やシルバーカーの使用の有無では、「はい」の方が65.9%となっています。

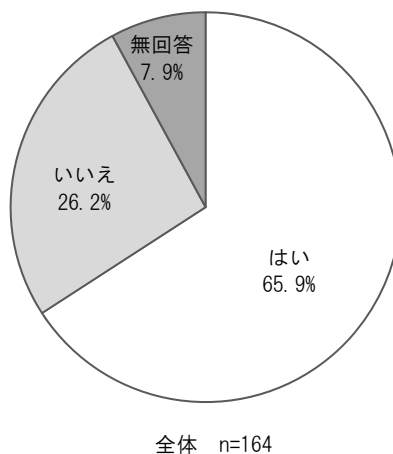
問2-(5) 転倒に対する不安の有無



問2-(11) 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思うか



問2-(12) 杖やシルバーカーの使用の有無



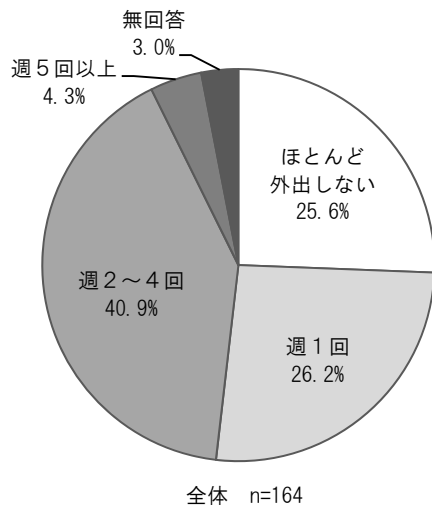


(2) 外出の状況

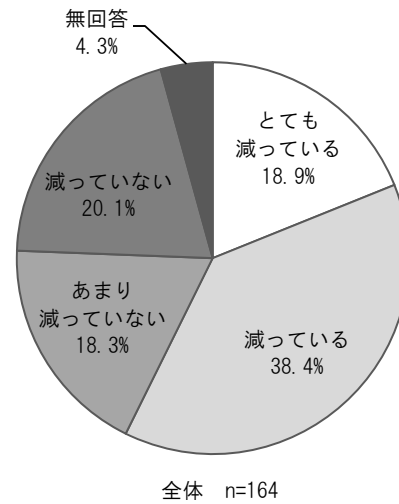
○要支援者の週に1回以上の外出の有無では、「週1回」(26.2%)と「ほとんど外出しない」(25.6%)を合わせた51.8%の方が週1回以下と回答しています。

○昨年と比べた外出の頻度は、「減っている」(38.4%)と「とても減っている」(18.9%)を合わせた57.3%の方が減っていると回答しています。

問2-(6) 週に1回以上の外出の有無



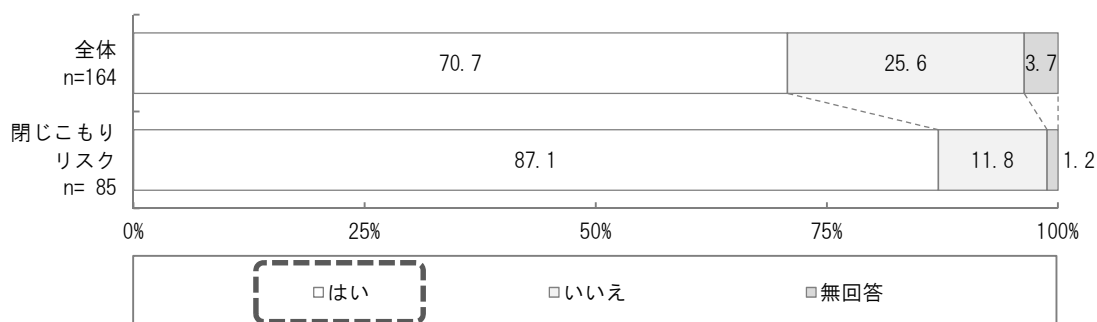
問2-(7) 昨年と比べた外出の頻度



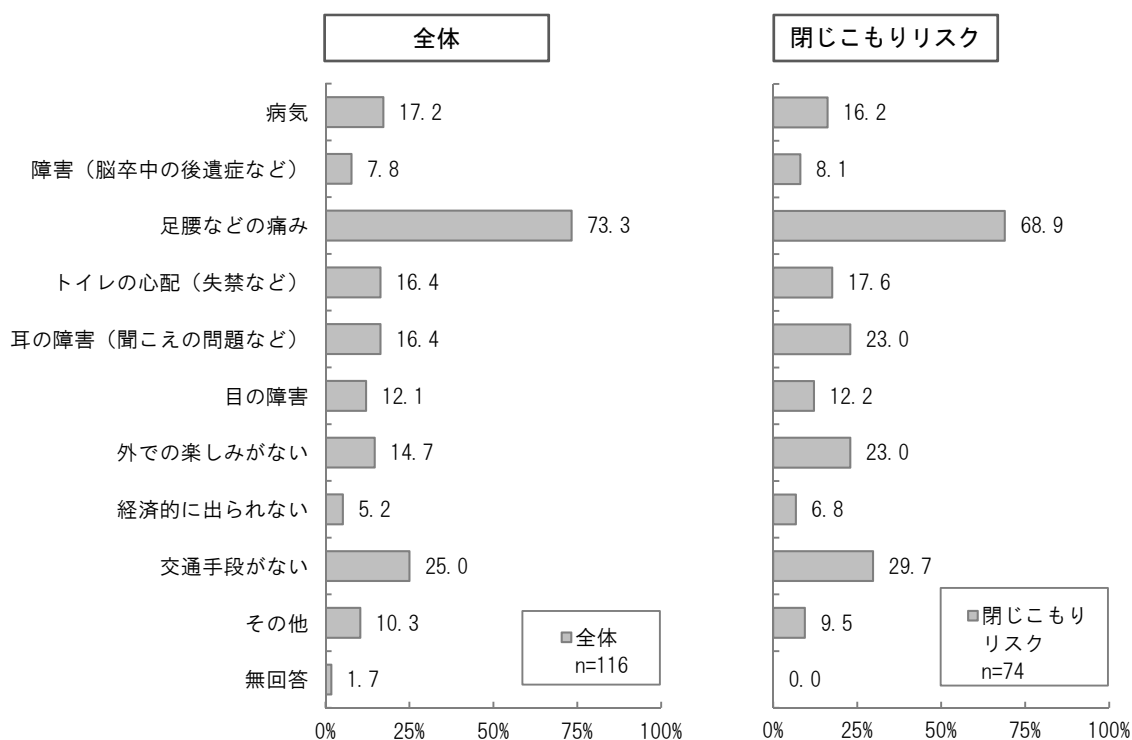
○要支援者が外出を控えているかをみると、全体では70.7%の方が外出を控えていると回答しています。一方、閉じこもりリスク者では87.1%と前者よりも16.4ポイント上回っています。

○要支援者の外出を控えている理由は、両者ともに「足腰などの痛み」(73.3%・68.9%)が最も高く、次いで「交通手段がない」(25.0%・29.7%)の順となっています。

問2-(8) 外出を控えているか (×「閉じこもりリスク者」)

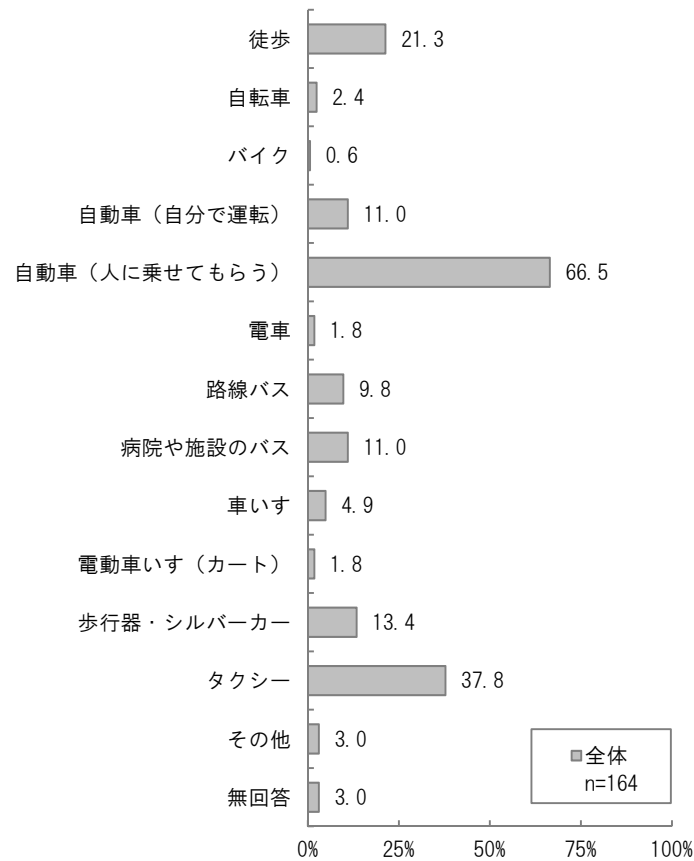


問2-(8).① 外出を控えている理由 (×「閉じこもりリスク者」)



○要支援者の外出する際の移動手段は、「自動車（人に乗せてもらう）」（66.5%）が最も高く、次いで「タクシー」（37.8%）、「徒歩」（21.3%）、「歩行器・シルバーカー」（13.4%）、「自動車（自分で運転）」「病院や施設のバス」（各 11.0%）の順となっています。

問2-(9) 外出する際の移動手段

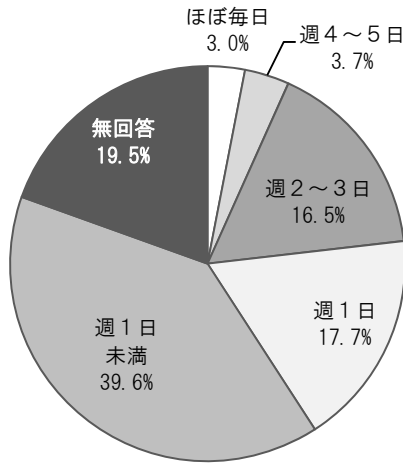


○要支援者の買物で外出する頻度では、「週1日未満」(39.6%)が最も高く、次いで「週1日」(17.7%)、「週2～3日」(16.5%)の順となっています。

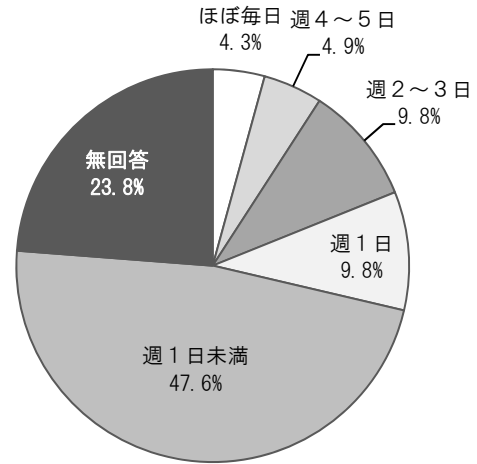
○また、散歩で外出する頻度では、「週1日未満」(47.6%)が最も高く、「週2～3日」「週1日」(各9.8%)の順となっています。

問2-(10).① 買物で外出する頻度

問2-(10).② 散歩で外出する頻度



全体 n=164



全体 n=164

### 3 食べることについて

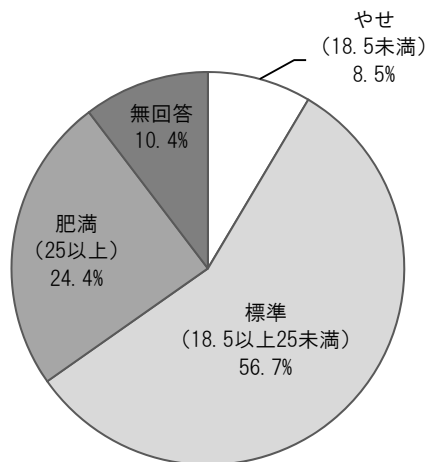
#### (1) 現在の肥満状況

○要支援者の肥満状況をBMI指数で見ると、「やせ(18.5未満)」の方が8.5%となっています。

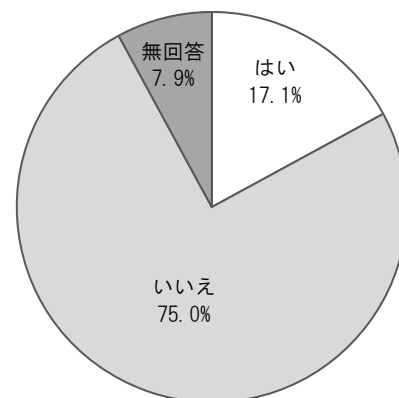
○6か月間で2～3kg以上の体重減少の有無では、17.1%の方が減少したと回答しています。

問3-(1) BMI指数

問3-(8) 6か月間で2～3kg以上の体重減少の有無



全体 n=164



全体 n=164

(2) 歯・口腔の状況

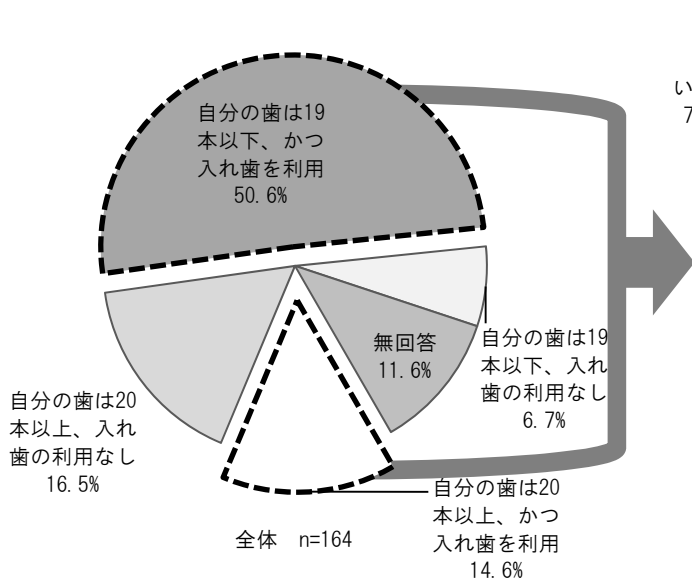
○要支援者の歯の数と入れ歯の利用状況は、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」(50.6%)と「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」(14.6%)を合わせた 65.2%の方が入れ歯を利用しています。

○また、入れ歯利用者のうち 86.0%の方が、毎日入れ歯の手入れをしていると回答しています。

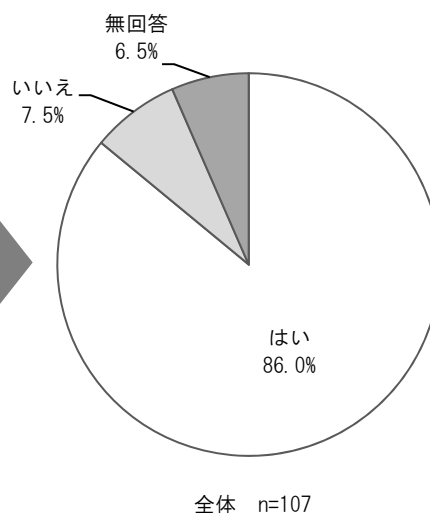
○噛み合わせは、65.9%の方が良いと回答しています

○歯磨きを毎日しているかでは、83.5%の方が「はい」と回答しています。

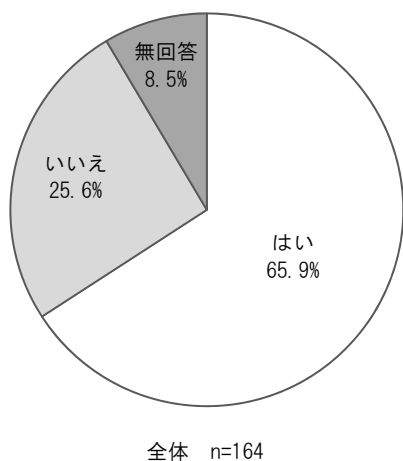
問 3-(3) 歯の数と入れ歯の利用状況



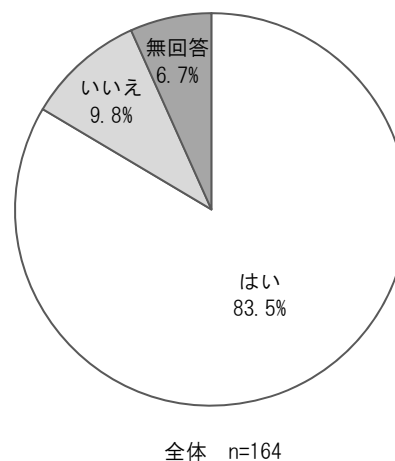
問 3-(3).① 毎日入れ歯の手入れをしているか



問 3-(3).② 噛み合わせは良いか



問 3-(7) 歯磨きを毎日しているか

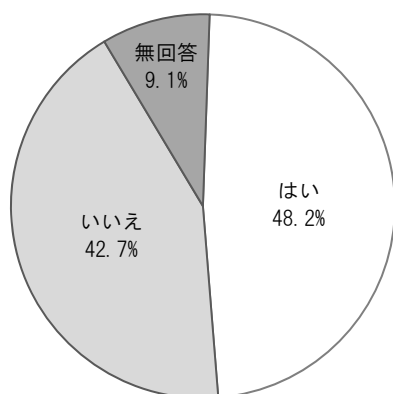


○要支援者の半年前に比べて固いものが食べにくくなったかでは、「はい」の方が 48.2% となっています。

○お茶や汁物等でむせることの有無では、34.1%の方が有ると回答しています。

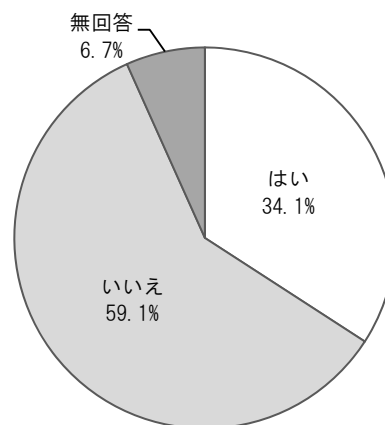
○要支援者の口の渇きが気になるかでは、45.7%の方が「はい」と回答しています。

問3-(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなった



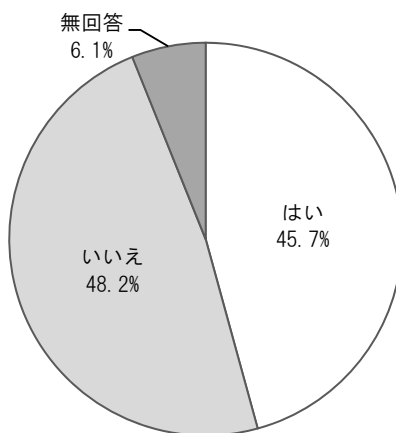
全体 n=164

問3-(5) お茶や汁物等でむせることの有無



全体 n=164

問3-(6) 口の渇きが気になるか



全体 n=164

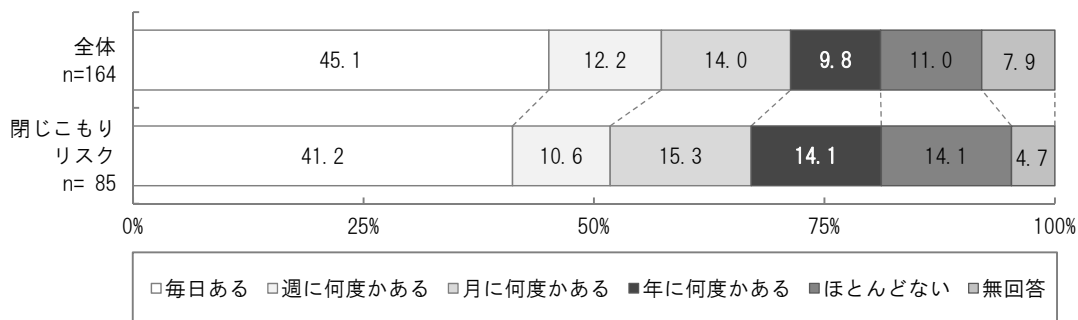
### (3) 食事の状況

○要支援者のどなたかと食事をとにもする機会の有無をみると、「全体」「閉じこもりリスク者」ともに「毎日ある」(45.1%・41.2%)が最も高くなっています。

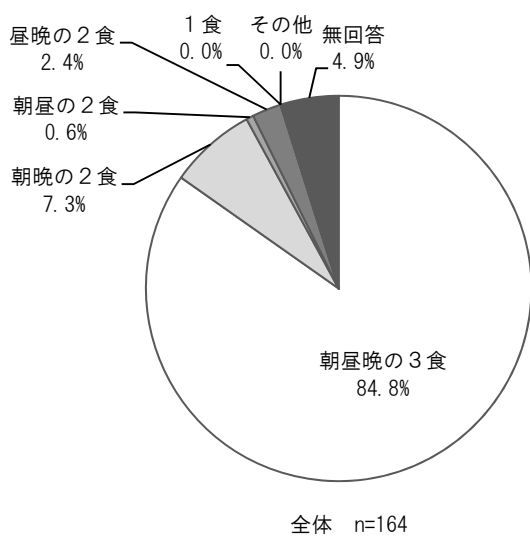
○1日の食事の回数は、「朝昼晩の3食」(84.8%)が最も高くなっています。

○食事は自分で食べられるかでは、「できる」(93.9%)が最も高くなっています。

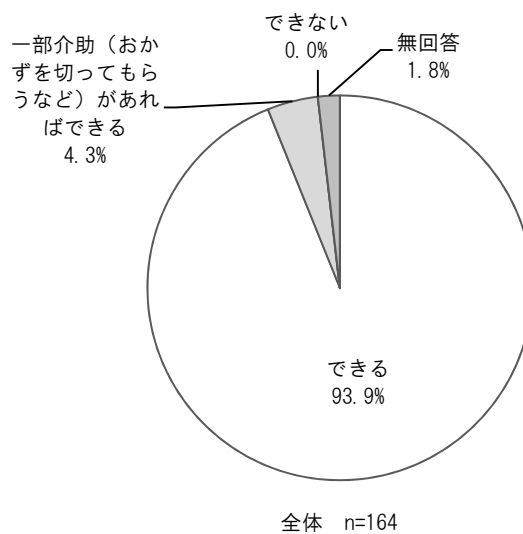
問3-(4) どなたかと食事をとにもする機会の有無 (×「閉じこもりリスク者」)



問3-(9) 1日の食事の回数

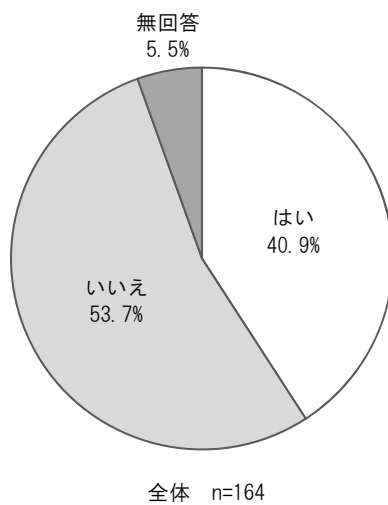


問4-(22) 食事は自分で食べられるか



○要支援者の家事全般ができていないかでは、53.7%の方ができないと回答しています。

問4-(23) 家事全般ができていないか



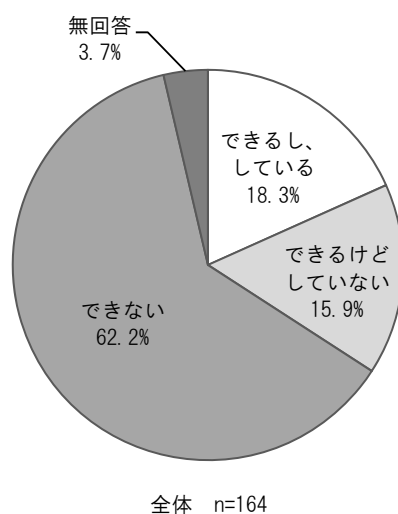


## 4 毎日の生活について

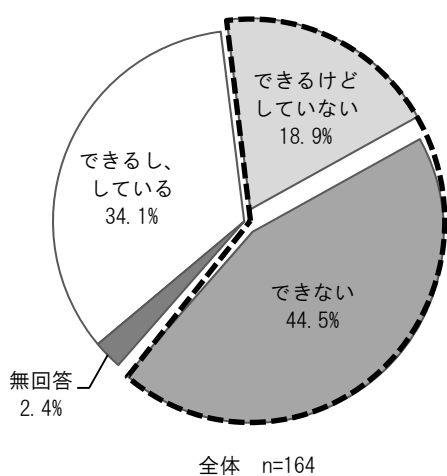
### (1) IADL（手段的自立度）の状況

- 要支援者のバスや電車を使って1人で外出しているかでは、「できない」方が62.2%となっています。
- 自分で食品・日用品の買物をしているかでは、「できない」方が44.5%、「できるけどしていない」方が18.9%となっています。
- 食品・日用品の買物をする人をみると、「同居の家族」(69.2%)が最も高く、次いで「別居の家族」(10.6%)の順となっています。

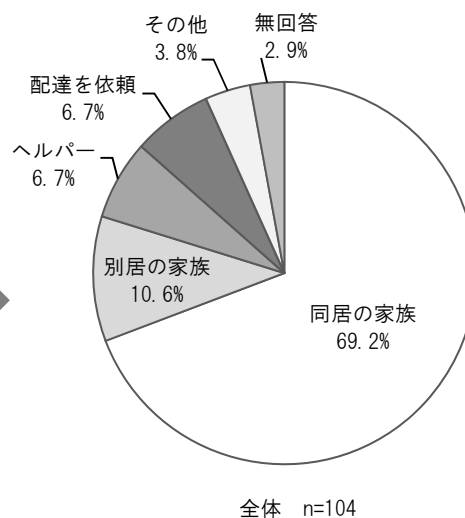
問4-(2) バスや電車を使って1人で外出しているか



問4-(3) 自分で食品・日用品の買物をしているか



問4-(3).① 食品・日用品の買物をする人



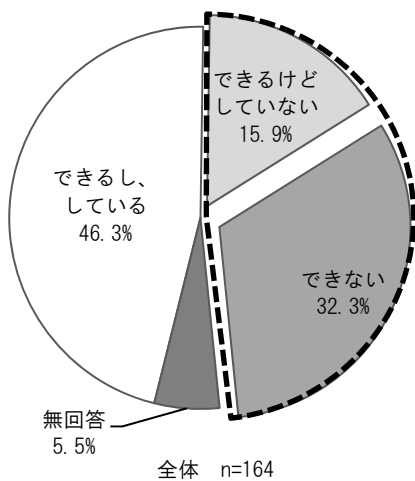
○要支援者の自分で食事の用意をしているかでは、「できない」方が32.3%、「できるだけしていない」方が15.9%となっています。

○食事の用意をする人をみると、「同居の家族」(87.3%)が最も高くなっています。また、「配食サービスを利用」の方は1.3%とわずかな状況です。

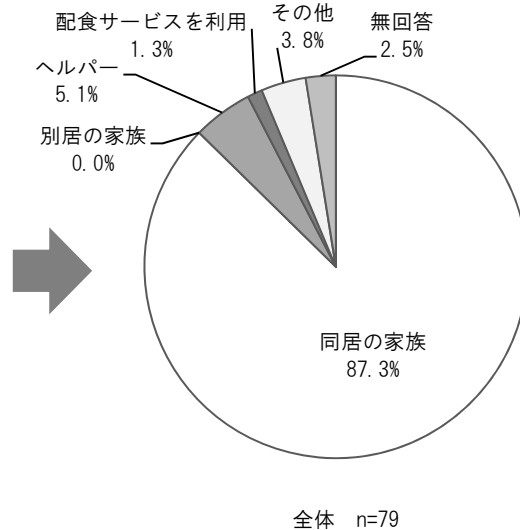
○自分で請求書の支払いをしているかでは、「できない」方が22.0%となっています。

○自分で預貯金の出し入れをしているかでは、「できない」方が25.0%となっています。

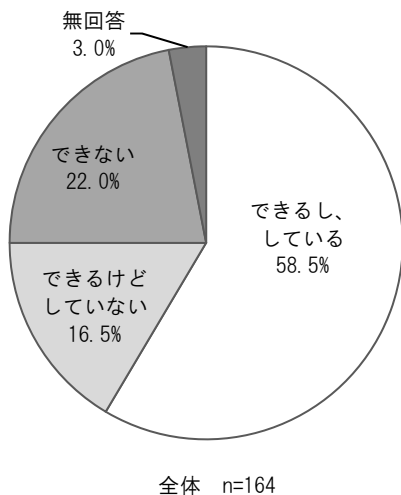
問4-(4) 自分で食事の用意をしているか



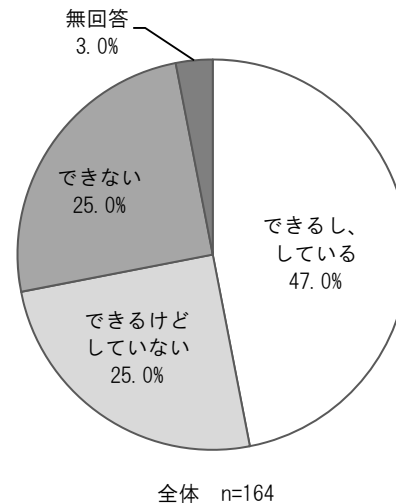
問4-(4).① 食事の用意をする人



問4-(5) 自分で請求書の支払いをしているか

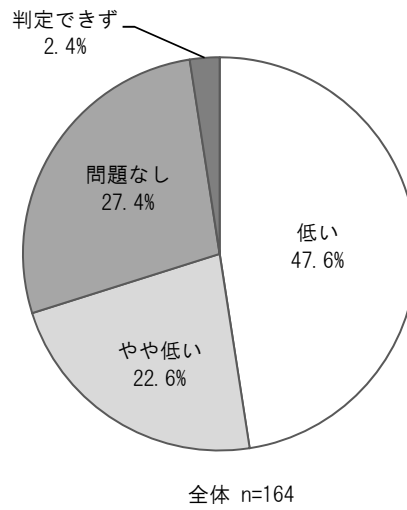


問4-(6) 自分で預貯金の出し入れをしているか



○ IADL（手段的自立度）の低下該当状況をみると、「低い」（47.6%）が最も高く、次いで「問題なし」（27.4%）、「やや低い」（22.6%）となっています。

IADL（手段的自立度）の低下該当状況



## (2) 社会参加（知的能動性）の状況

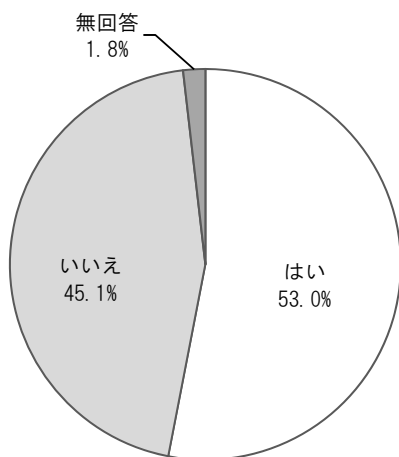
○要支援者の年金などの書類が書けるかでは、45.1%の方が書けないと回答しています。

○新聞を読んでいるかでは、「いいえ」の方が28.0%となっています。

○本や雑誌を読んでいるかをでは、「いいえ」の方が40.9%となっています。

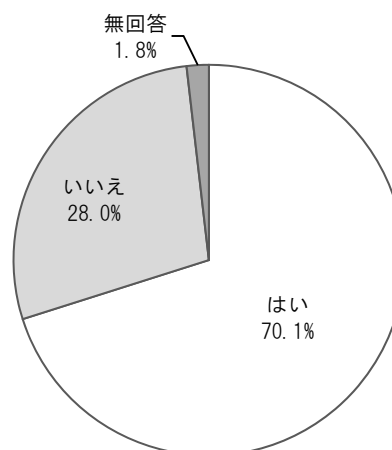
○健康についての記事や番組に関心があるかでは、「いいえ」の方が17.1%となっています。

問4-(9) 年金などの書類が書けるか



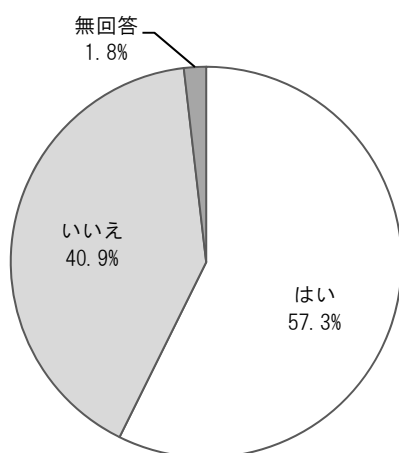
全体 n=164

問4-(10) 新聞を読んでいるか



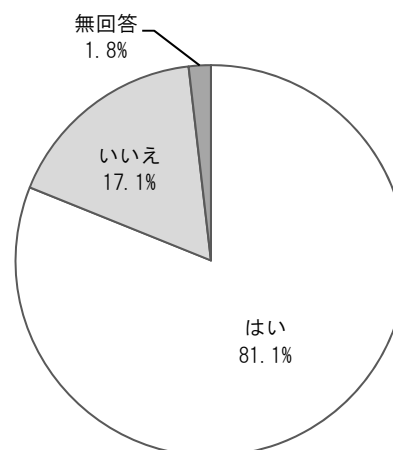
全体 n=164

問4-(11) 本や雑誌を読んでいるか



全体 n=164

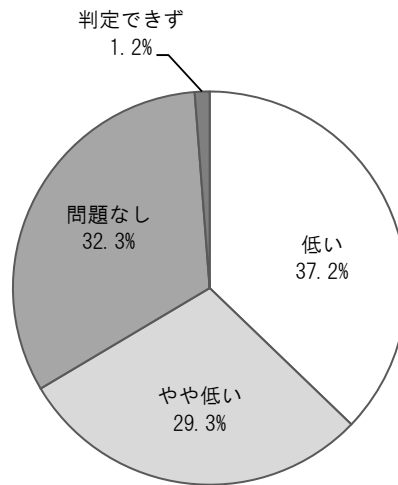
問4-(12) 健康についての記事や番組に関心があるか



全体 n=164

○知的能動性の低下該当状況をみると、「低い」(37.2%)が最も高く、次いで「問題なし」(32.3%)、「やや低い」(29.3%)となっています。

知的能動性の低下該当状況



全体 n=164

### (3) 社会参加（社会的役割）の状況

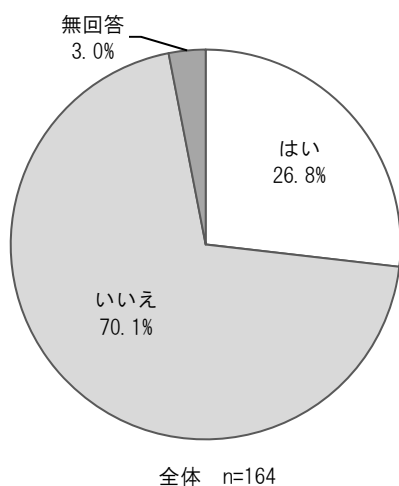
○要支援者の友人の家を訪ねているかでは、「いいえ」の方が70.1%となっています。

○家族や友人の相談にのっているかでは、「いいえ」の方が42.7%となっています。

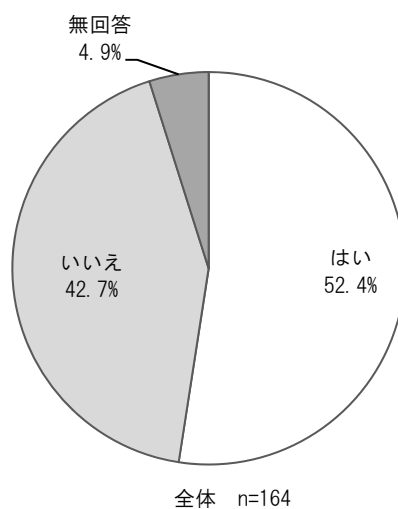
○病人を見舞うことができるかでは、「いいえ」の方が49.4%となっています。

○若い人に自分から話しかけることはあるかでは、「いいえ」の方が26.2%となっています。

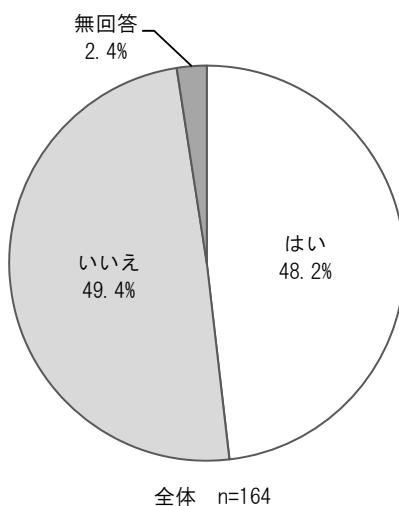
問4-(13) 友人の家を訪ねているか



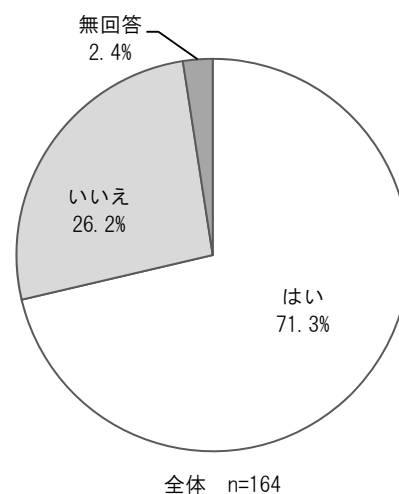
問4-(14) 家族や友人の相談にのっているか



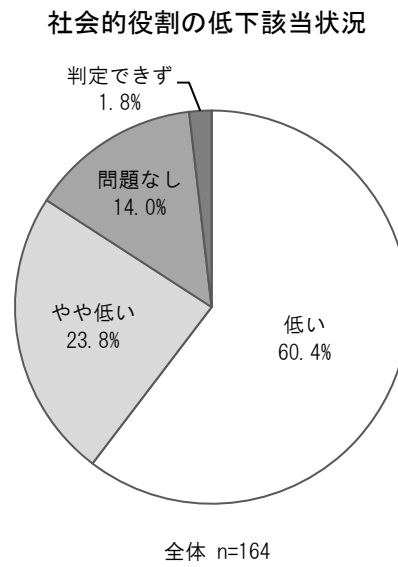
問4-(15) 病人を見舞うことができるか



問4-(16) 若い人に自分から話しかけることはあるか

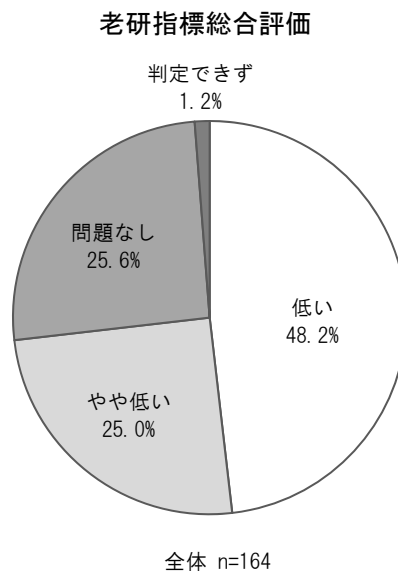


○社会的役割の低下該当状況をみると、「低い」(60.4%)が最も高く、次いで「やや低い」(23.8%)、「問題なし」(14.0%)となっています。



#### (4) 老研指標総合評価

○ IADL（手段的自立度）、知的能動性、社会的役割の低下状況を老研指標総合評価で見ると、「問題なし」の方が25.6%となっており、「低い」(48.2%)、「やや低い」(25.0%)を合わせた7割強の方が低下状況にあります。

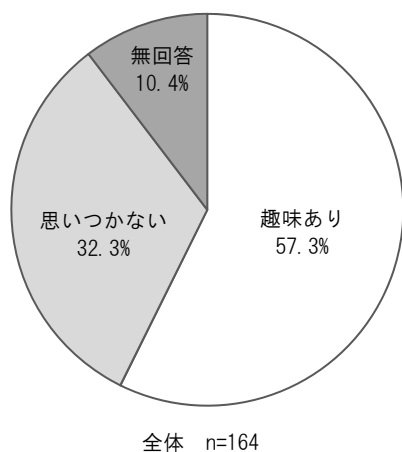


#### (5) こころの健康状態

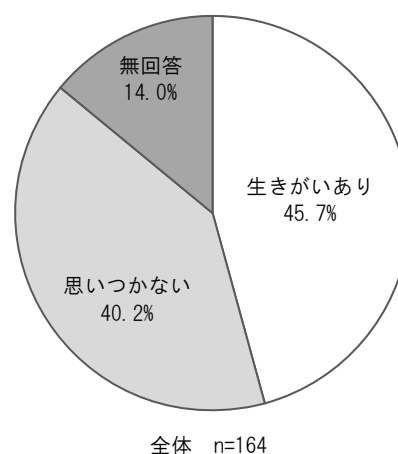
○ 要支援者の趣味の有無では、57.3%の方があると回答しています。

○ 生きがいの有無では、45.7%の方があると回答しています。

問 4-(17) 趣味はあるか



問 4-(18) 生きがいはあるか





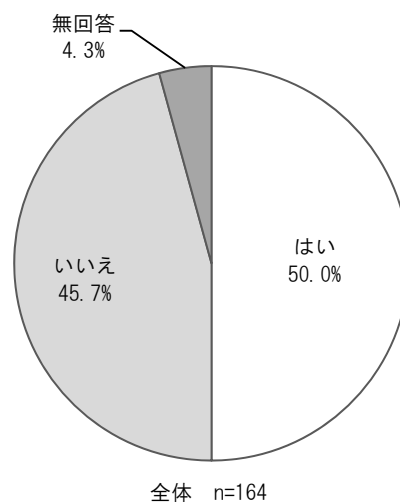
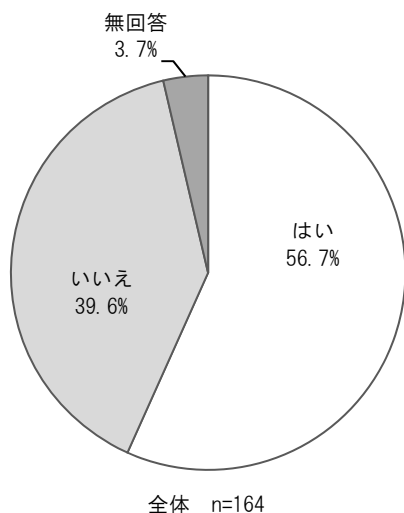
○この1か月間、気分が沈んだりすることの有無では、56.7%の方があると回答しています。

○この1か月間、物事に対して心から楽しめない感じの有無では、50.0%の方があると回答しています。

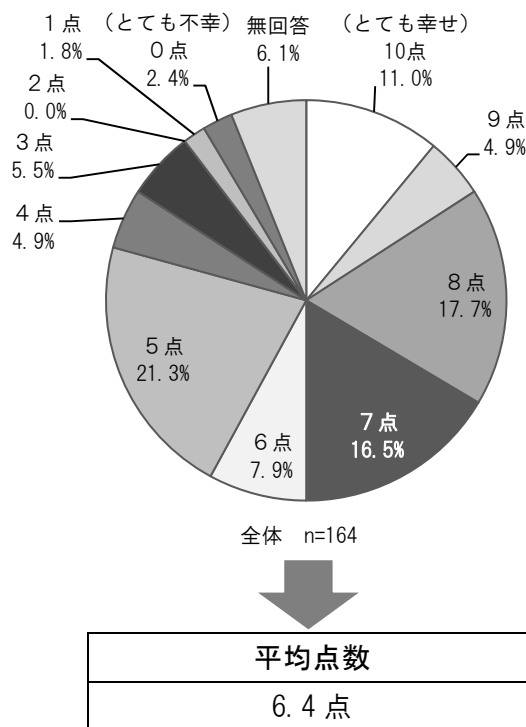
○現在の主観的幸福感では、「5点」(21.3%)が最も高く、次いで「8点」(17.7%)、「7点」(16.5%)、「(とても幸せ)10点」(11.0%)の順となっています。また、平均点数は6.4点となっています。

問7-(3) この1か月間、気分が沈んだりする

問7-(4) この1か月間、物事に対して心から楽しめない



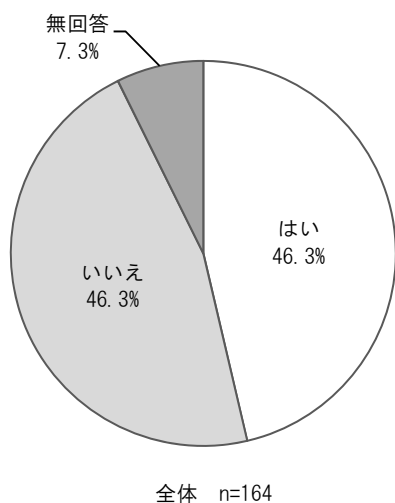
問7-(2) 現在どの程度幸せですか



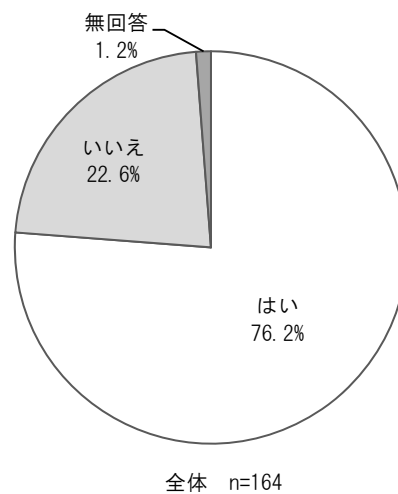
(6) 物忘れの状況

- 要支援者の物忘れが多いと感じるかでは、「はい」の方が46.3%となっています。
- 自分で電話番号を調べて電話をかけるかでは、「いいえ」の方が22.6%となっています。
- 今日が何月何日かわからない時があるかでは、42.1%の方があると回答しています。

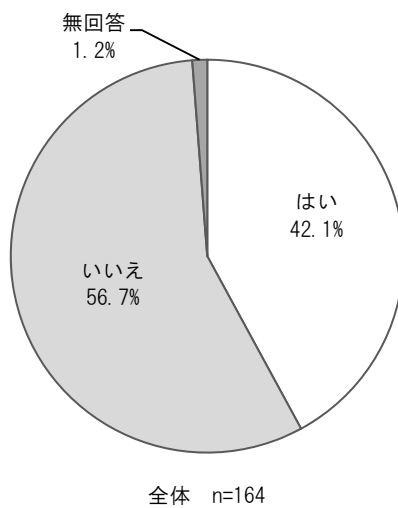
問4-(1) 物忘れが多いと感じるか



問4-(7) 自分で電話番号を調べて電話をかけるか



問4-(8) 今日が何月何日かわからない時があるか

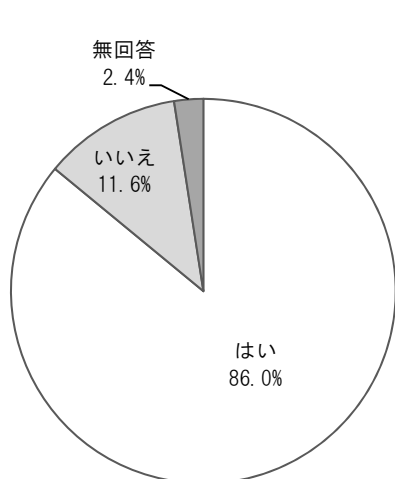


○要支援者の5分前に自分が何をしていたか思い出せるかでは、11.6%の方が思い出せないと回答しています。

○その日の活動を自分で判断できるかでは、「ほとんど判断できない」方は0.6%となっています。

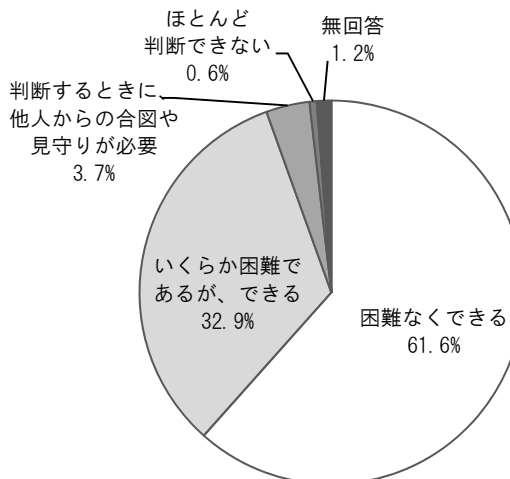
○人に自分の考えをうまく伝えられるかでは、「あまり伝えられない」(7.3%)と「ほとんど伝えられない」(0.6%)を合わせた7.9%が伝えられていない状況です。

問4-(19) 5分前に自分が何をしていたか  
思い出せるか



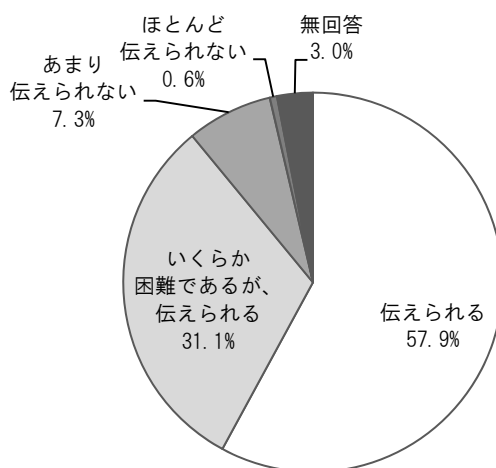
全体 n=164

問4-(20) その日の活動を自分で判断できるか



全体 n=164

問4-(21) 人に自分の考えをうまく伝えられるか

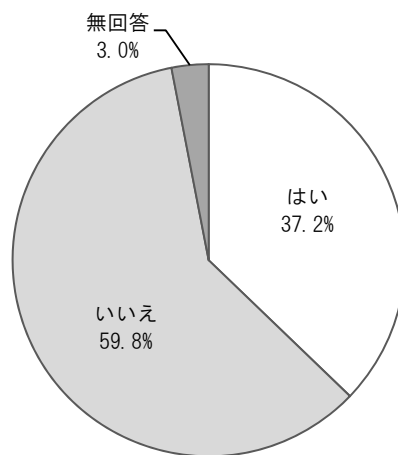


全体 n=164

### (7) ゴミ出しの状況（市独自設問）

○要支援者のゴミ出しができていないかをみると、59.8%の方ができていないと回答しています。

問4-(24) ゴミ出しができていないか



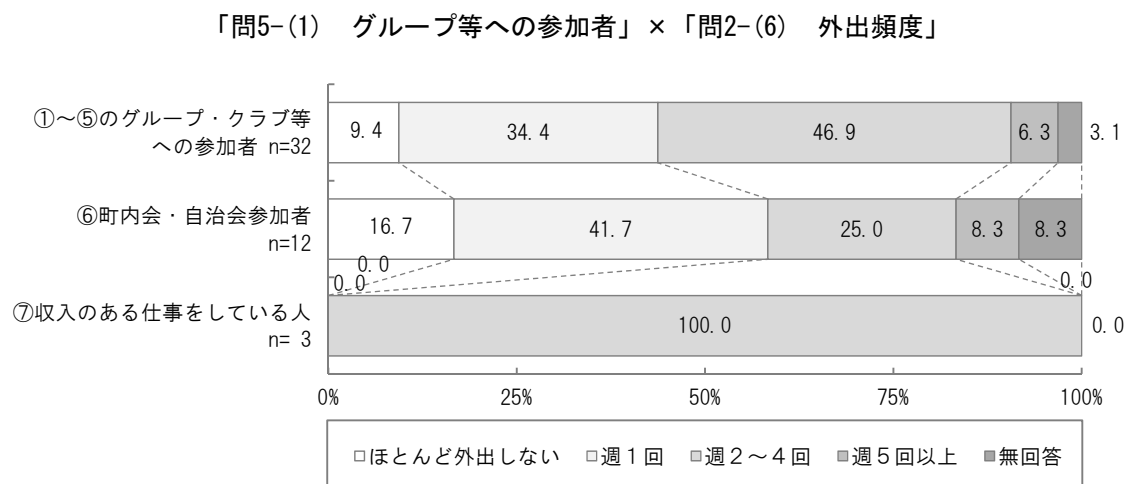
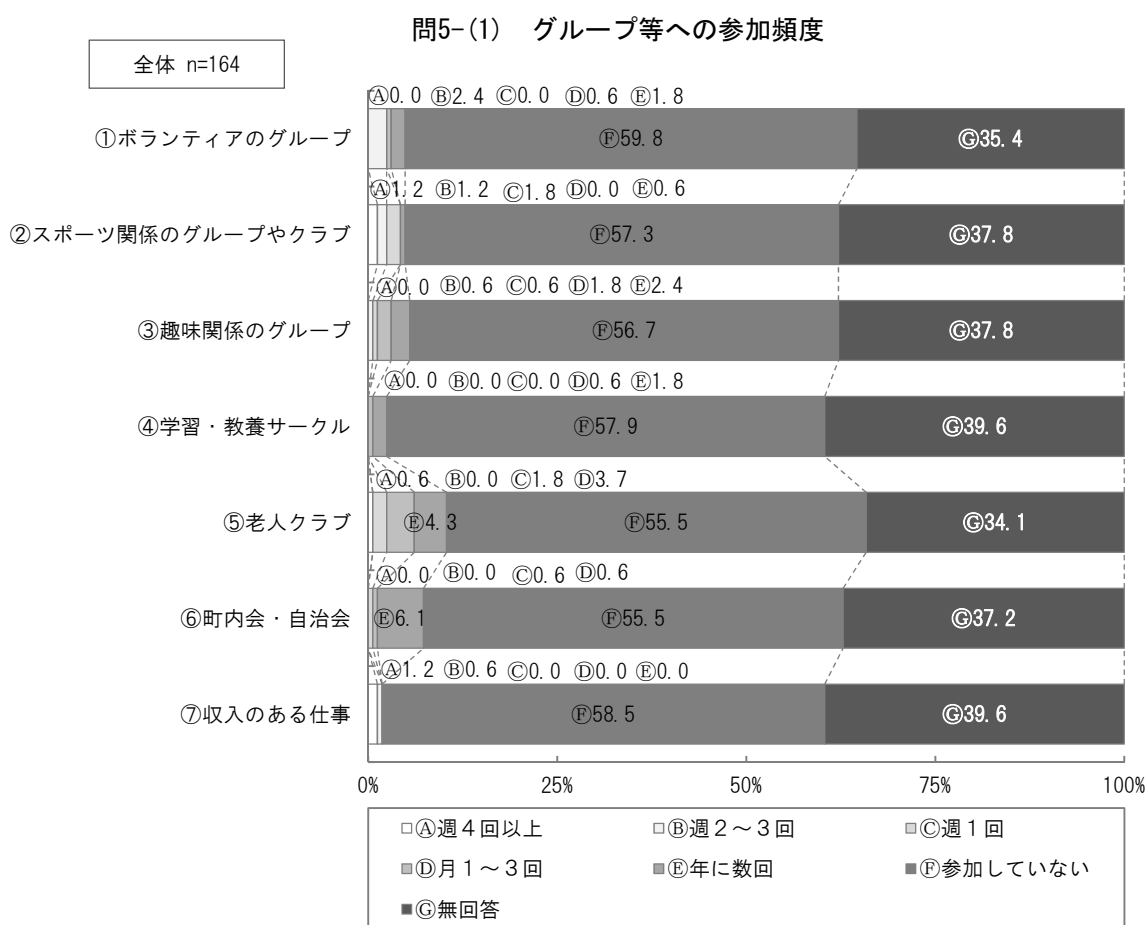
全体 n=164

## 5 地域での活動について

### (1) グループ活動等の状況

○要支援者のグループ等への参加頻度をみると、週に1回以上の就労または参加している方は「②スポーツ関係のグループやクラブ」(4.2%)、「①ボランティアのグループ」「⑤老人クラブ」(各2.4%)、「⑦収入のある仕事」(1.8%)となっています。

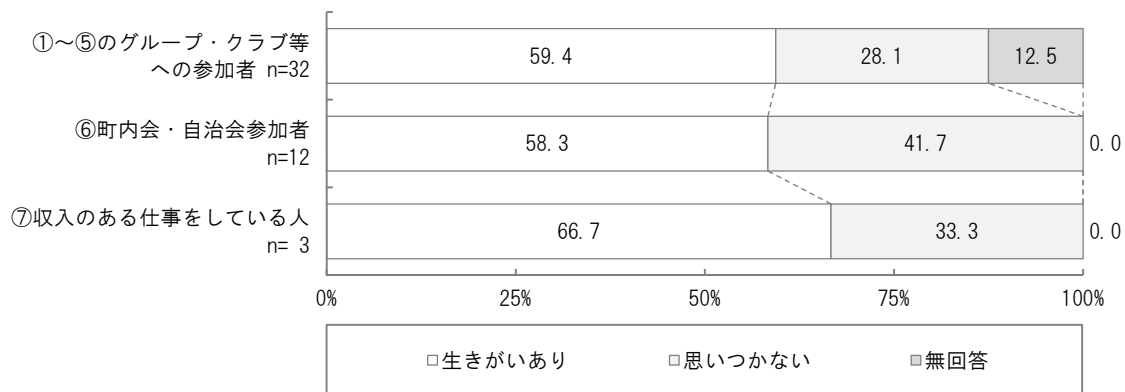
○また、グループ等への参加者の外出頻度では、「⑥町内会・自治会参加者」で週1回以下の方は58.4%となり、他のグループ等への参加者より外出が少ない状況です



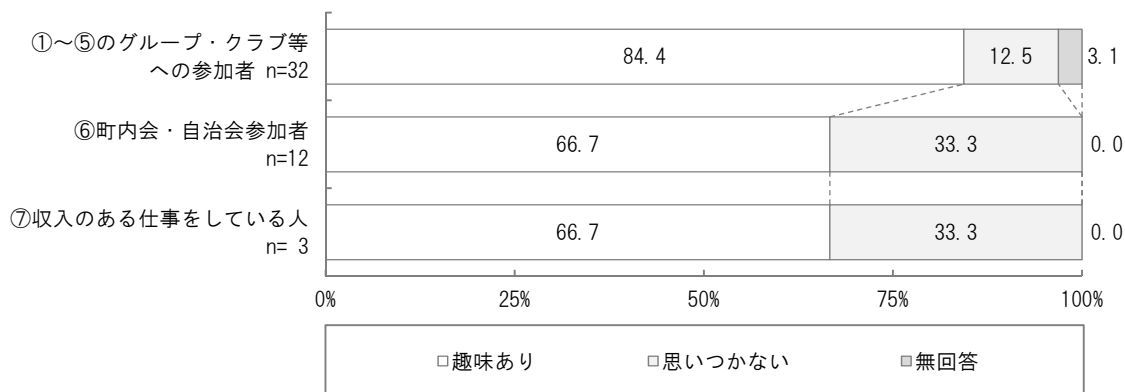
○要支援者のグループ等への参加者の生きがいの有無では、いずれの参加者も6割前後が生きがいがあると回答しています。

○グループ等への参加者の趣味の有無では、「①～⑤のグループ・クラブ等への参加者」で8割以上、他の参加者も6割以上が趣味があると回答しています。

「問5-(1) グループ等への参加者」 × 「問4-(18) 生きがいの有無」



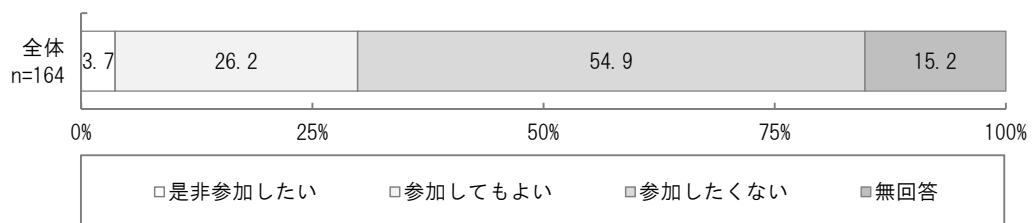
「問5-(1) グループ等への参加者」 × 「問4-(17) 趣味の有無」



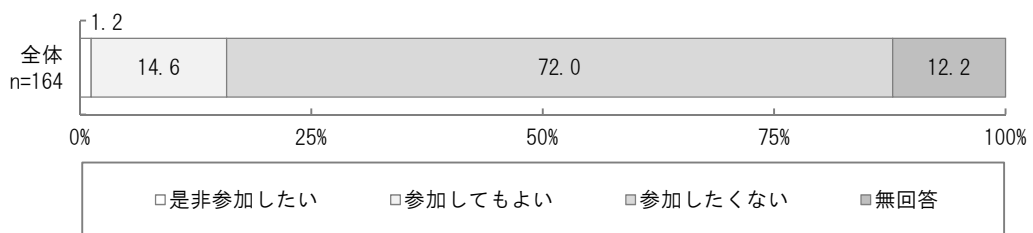
(2) 地域づくりに対する参加意向

- 参加者としてグループ活動等に参加してみたいかでは、「是非参加したい」(3.7%)と「参加してもよい」(26.2%)を合わせた 29.9%の方が参加の意向です。
- 企画・運営としてグループ活動等に参加してみたいかでは、「是非参加したい」(1.2%)と「参加してもよい」(14.6%)を合わせた 15.8%の方が参加の意向です。一方、「参加したくない」方は 72.0%となっています。
- グループ活動等への参加希望者と企画・運営への参加希望者の健康感をみると、両者とも「まあ健康」(49.0%・46.2%)が最も高くなっています。なお、「とても健康」では後者が前者を 1.8 ポイント上回っています。

問5-(2) 参加者としてグループ活動等に参加してみたいか

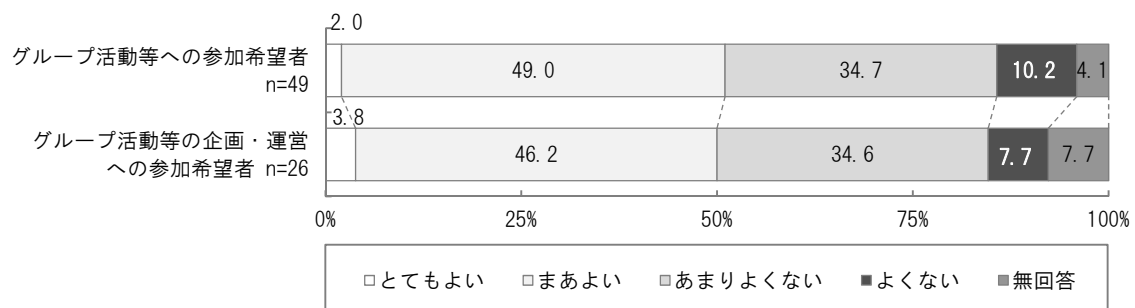


問5-(3) 企画・運営としてグループ活動等に参加してみたいか



「問5-(2) グループ活動等参加希望者」・「問5-(3) 企画・運営等参加希望者」

× 「問7-(1) 主観的健康感」

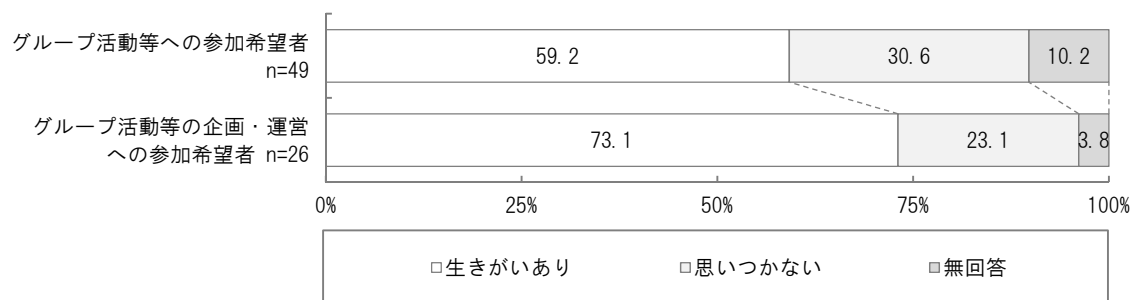


○要支援者のグループ活動および企画・運営への参加希望者の生きがいの有無では、「生きがいあり」で前者が59.2%、後者が73.1%と後者が13.9ポイント上回っています。

○グループ活動等および企画・運営への参加希望者の趣味の有無では、「趣味あり」で前者が71.4%、後者が65.4%と前者が6.0ポイント上回っています。

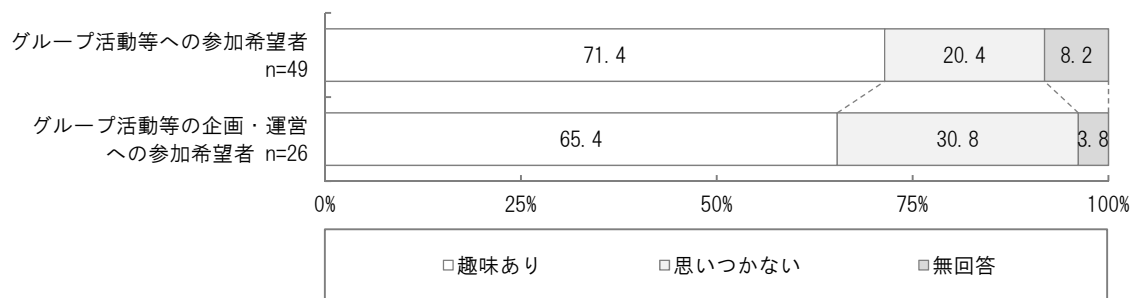
「問5-(2) グループ活動等参加希望者」・「問5-(3) 企画・運営等参加希望者」

× 「問4-(18) 生きがいの有無」



「問5-(2) グループ活動等参加希望者」・「問5-(3) 企画・運営等参加希望者」

× 「問4-(17) 趣味の有無」

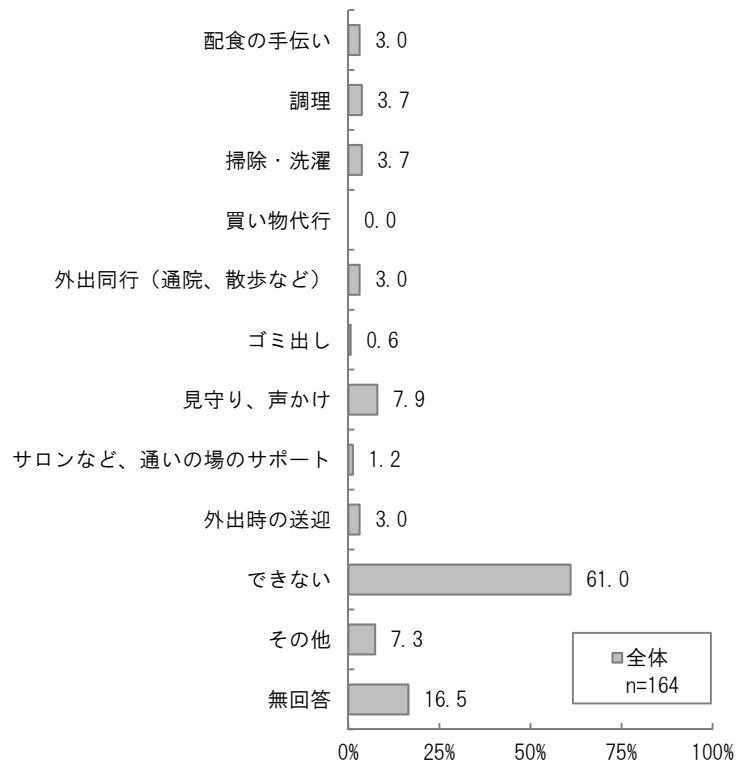




(3) 地域住民が生活支援サービスとして支援できるもの

○要支援者の地域でできる支援では、「見守り、声かけ」(7.9%)が最も高くなっています。一方、「できない」方は61.0%となっています。

問5-(4) 地域でできる支援内容

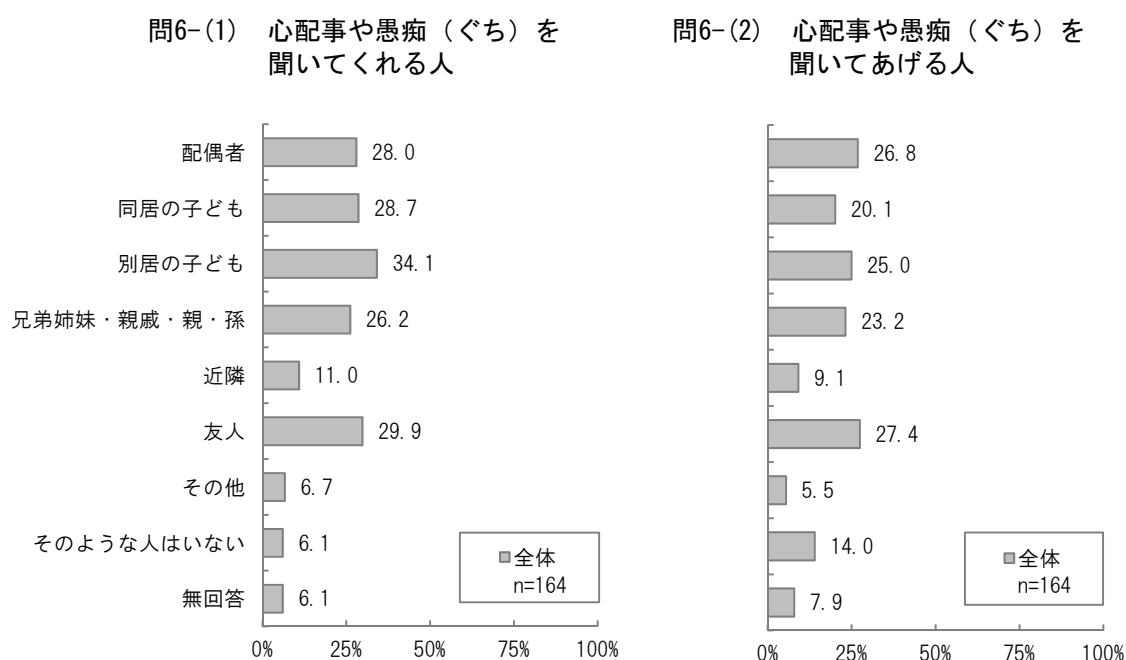


## 6 たすけあいについて

### (1) 困った際に頼る相手または頼られる相手

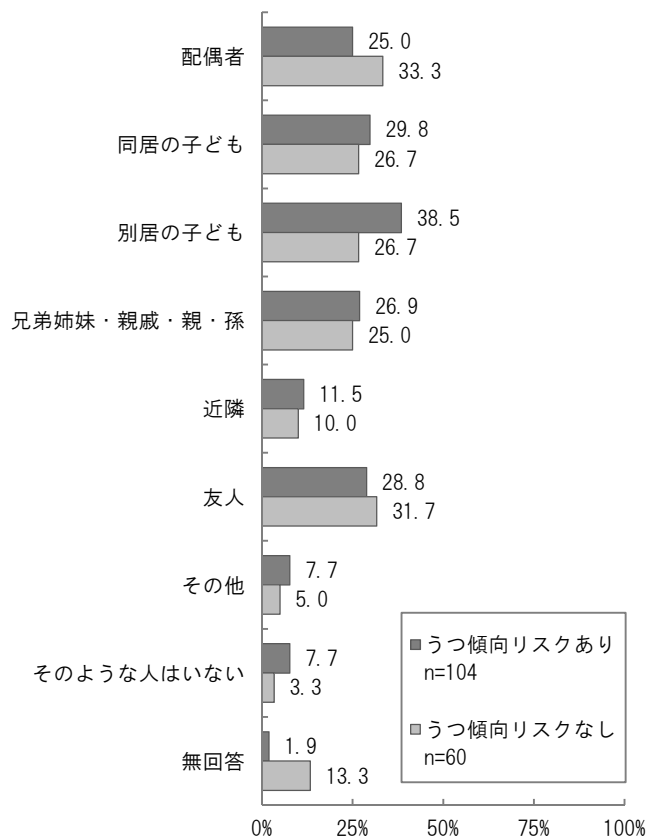
○要支援者の心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人は、「別居の子ども」（34.1％）が最も高く、次いで「友人」（29.9％）、「同居の子ども」（28.7％）、「配偶者」（28.0％）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（26.2％）の順となっています。一方、「そのような人はいない」方は6.1％となっています。

○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は、「友人」（27.4％）が最も高く、次いで「配偶者」（26.8％）、「別居の子ども」（25.0％）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（23.2％）、「同居の子ども」（20.1％）の順となっています。一方、「そのような人はいない」方は14.0％となっています。



○要支援者の心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人をうつ傾向リスクのあり・なし別にみると、リスクありは「別居の子ども」（38.5%）、リスクなしは「配偶者」（33.3%）が最も高く、次いでリスクありでは「同居の子ども」（29.8%）、リスクなしでは「友人」（31.7%）を順に挙げています。一方、「そのような人はいない」方は前者が7.7%、後者が3.3%となっています。

「問6-(1) 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人」×「うつ傾向リスク有無」

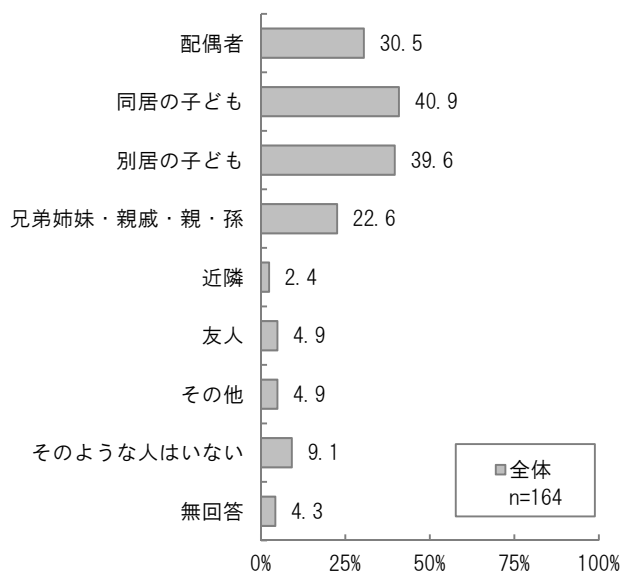


○要支援者の病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人は、「同居の子ども」(40.9%)が最も高く、次いで「別居の子ども」(39.6%)、「配偶者」(30.5%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(22.6%)の順となっています。

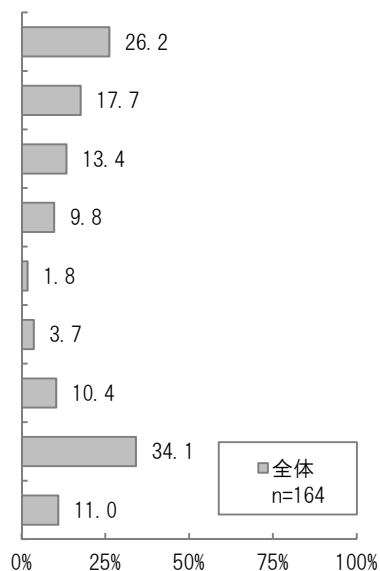
○看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」(26.2%)が最も高く、次いで「同居の子ども」(17.7%)、「別居の子ども」(13.4%)の順となっています。一方、「そのような人はいない」方は34.1%となっています。

○家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手は、「ケアマネジャー」(43.9%)が最も高く、次いで「地域包括支援センター・役所・役場」(29.3%)、「医師・歯科医師・看護師」(25.6%)の順となっています。一方、「そのような人はいない」方は18.9%となっています。

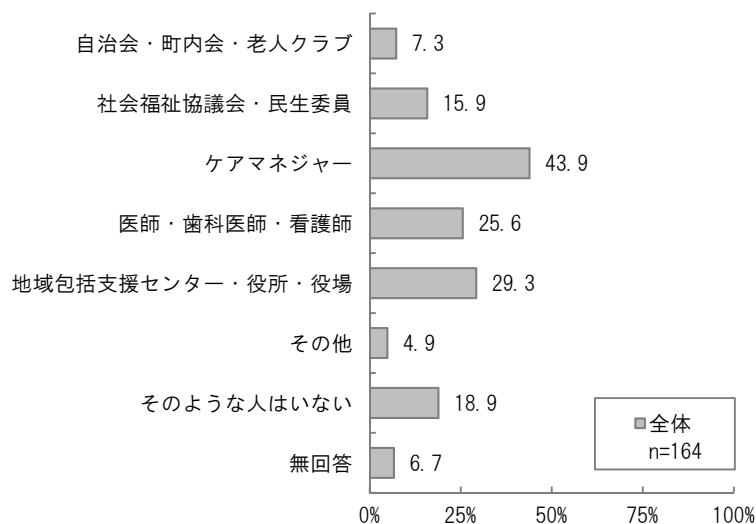
問6-(3) 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人



問6-(4) 看病や世話をしてあげる人



問6-(5) 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手



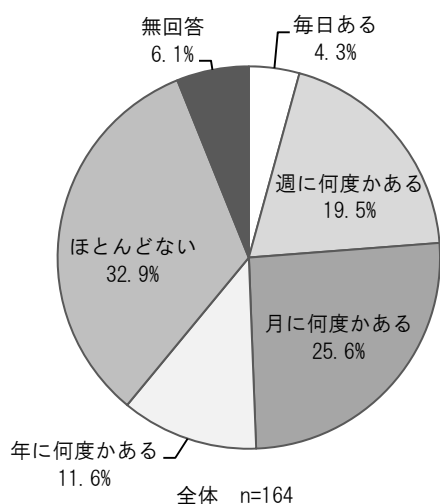
(2) 友人・知人との交流状況

○要支援者の友人・知人と会う頻度は、「ほとんどない」(32.9%)が最も高く、次いで「月に何度かある」(25.6%)、「週に何度かある」(19.5%)、「年に何度かある」(11.6%)の順となっています。

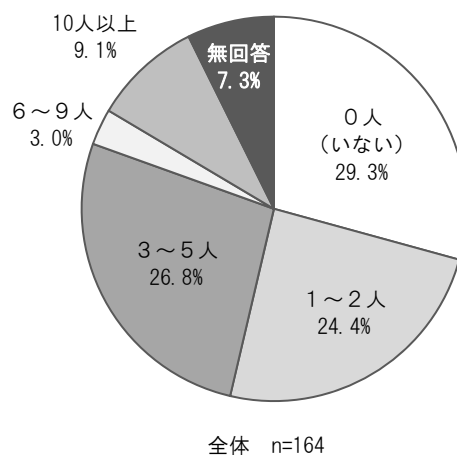
○1か月間、何人の友人・知人と会ったかでは、「3～5人」(26.8%)が最も高く、次いで「1～2人」(24.4%)の順となっています。一方、「0人(いない)」方は29.3%となっています。

○よく会う友人・知人はどんな関係の人かは、「近所・同じ地域の人」(43.9%)が最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」(16.5%)、「仕事での同僚・元同僚」(12.8%)、「学生時代の友人」(10.4%)の順となっています。一方、「いない」方は22.0%となっています。

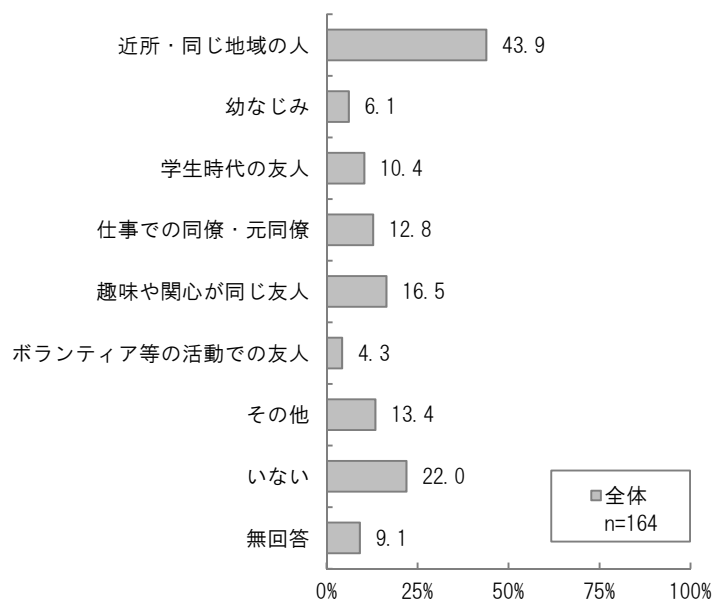
問 6-(6) 友人・知人と会う頻度



問 6-(7) 何人の友人・知人と会ったか (最近1か月間)



問6-(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人か

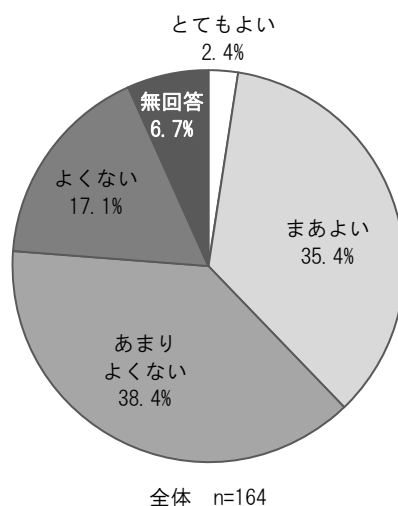


## 7 健康について

### (1) 健康状態

○要支援者の現在の主観的健康感をみると、「とてもよい」(2.4%)、「まあよい」(35.4%)を合わせた37.8%の方が健康と感じています。

問7-(1) 現在の健康状態はいかがですか

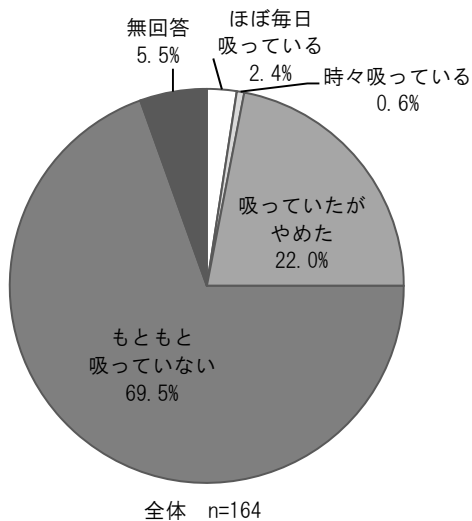


### (2) 疾病と喫煙や飲酒の関係

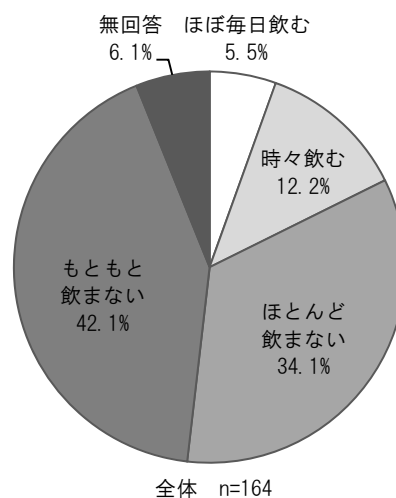
○要支援者の喫煙の有無では、「ほぼ毎日吸っている」(2.4%)と「時々吸っている」(0.6%)を合わせた3.0%の方が喫煙しています。

○飲酒の有無では、「ほぼ毎日飲む」(5.5%)と「時々飲む」(12.2%)を合わせた17.7%の方が飲酒しています。

問7-(5) 喫煙の有無

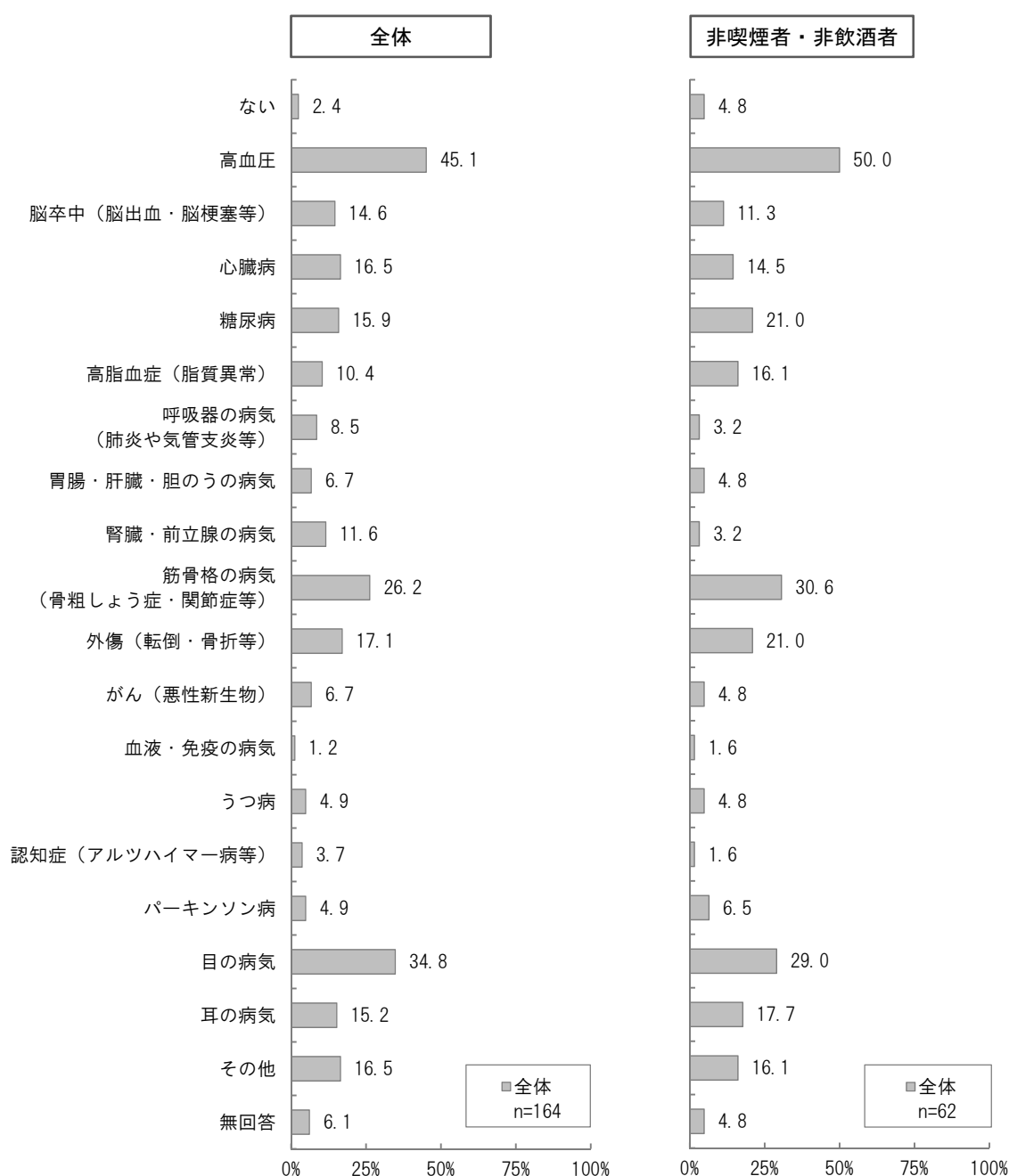


問7-(7) 飲酒の有無



- 要支援者の現在治療中、または後遺症のある病気の有無をみると、全体では「高血圧」(45.1%)が最も高く、次いで「目の病気」(34.8%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」(26.2%)の順となっています。
- 一方、非喫煙者・非飲酒者では、「高血圧」(50.0%)が最も高く、次いで「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」(30.6%)、「目の病気」(29.0%)、「糖尿病」「外傷(転倒・骨折等)」(各21.0%)の順となっています。
- また、全体と非喫煙者・非飲酒者を比較すると、喫煙や飲酒に起因する「脳卒中(脳出血・脳梗塞)」「心臓病」「糖尿病」「がん(悪性新生物)」の割合は「糖尿病」以外は後者が下回っています。一方、同様に生活習慣病である「高血圧」では後者の割合が高いことから疾病により医師から喫煙及び飲酒を止められている方も多いと思われます。

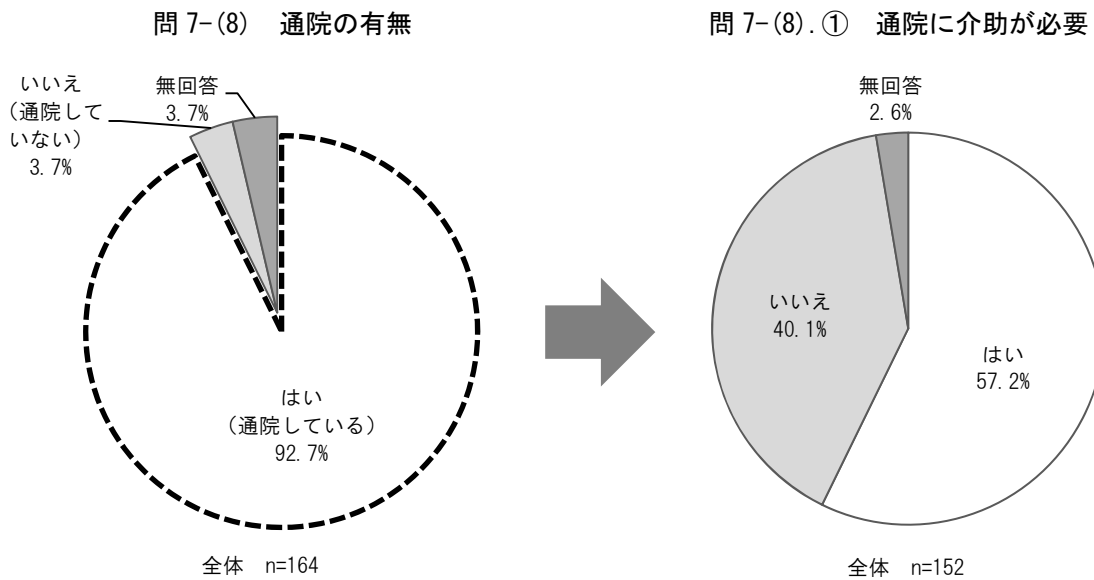
問7-(6) 現在治療中、または後遺症のある病気の有無



### (3) 通院の状況

○要支援者の通院の有無では、92.7%の方が通院していると回答しています。

○通院に介助が必要かでは、57.2%の方が「はい」と回答しています。





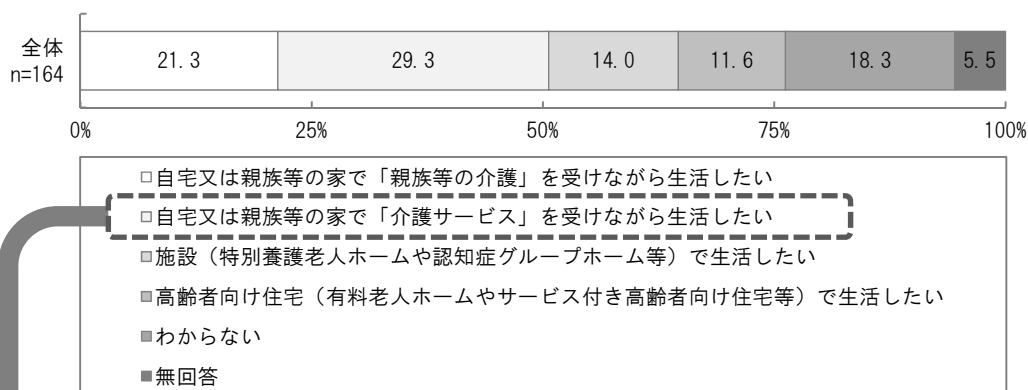
## 8 介護等が必要になった場合の生活について

### (1) 生活場所やサービス利用の意向

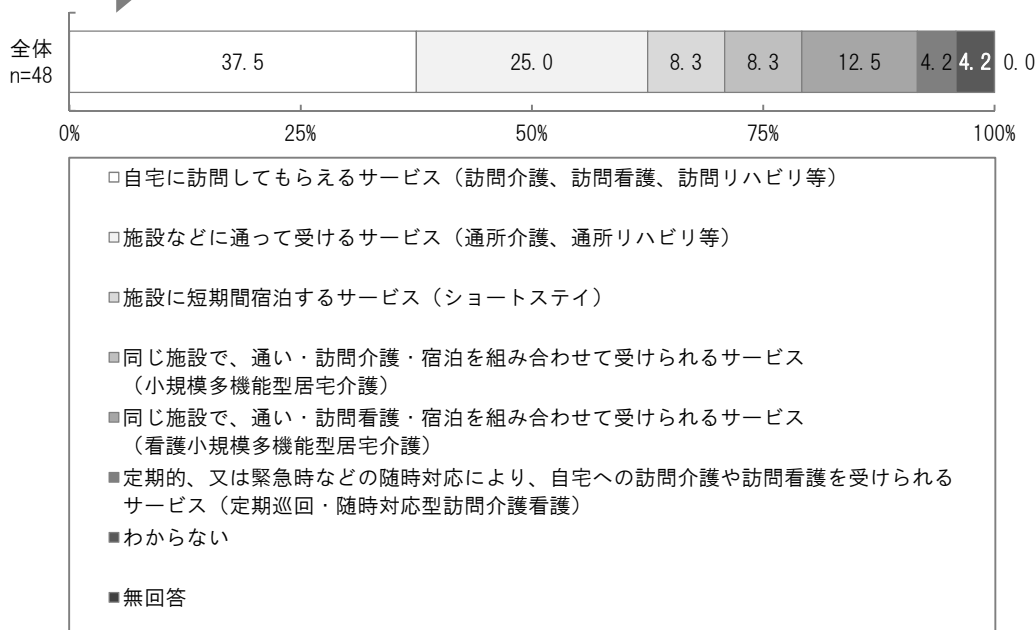
○要支援者の介護が必要になった場合、どこで生活をしたいかをみると、「自宅又は親族等の家で『介護サービス』を受けながら生活したい」(29.3%)が最も高くなっています。

○また、「自宅又は親族等の家で『介護サービス』を受けながら生活したい」と回答した方が受けたい介護サービスは、「自宅に訪問してもらえるサービス(訪問介護、訪問看護、訪問リハビリ等)」(37.5%)が最も高く、次いで「施設などに通って受けるサービス(通所介護、通所リハビリ等)」(25.0%)、「同じ施設で、通い・訪問看護・宿泊を組み合わせるサービス(看護小規模多機能型居宅介護)」(12.5%)の順となっています。

問8-(1) 介護が必要になった場合、どこで生活をしたいか



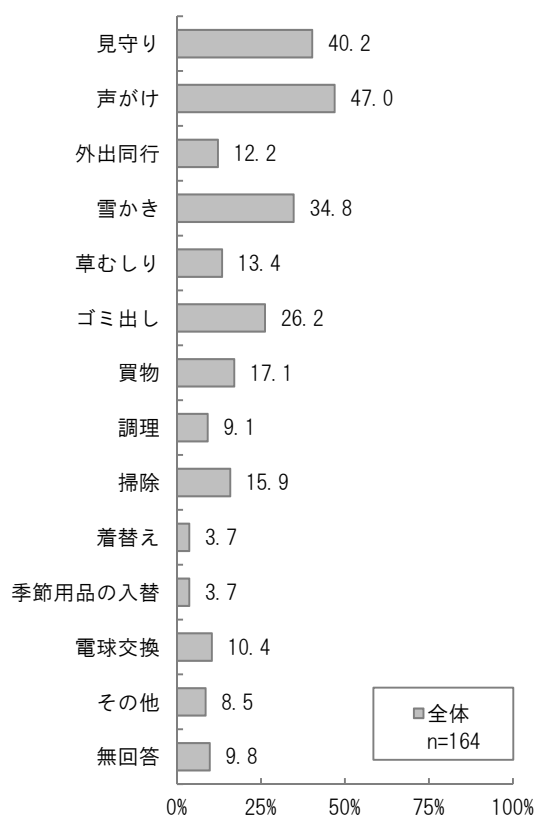
問8-(1).① どのような介護サービスを受けたいか



## (2) 近隣からの支援に望むこと

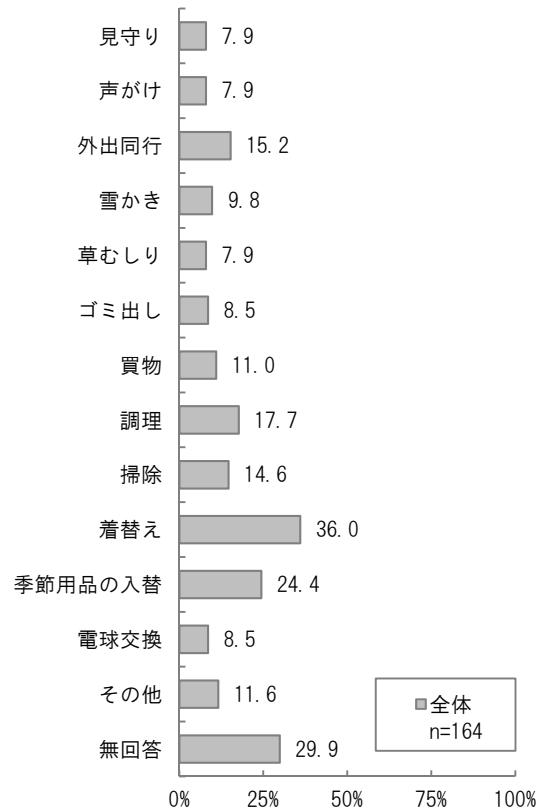
○要支援者の介護が必要になった場合、近隣の人に頼みたいことは、「声かけ」(47.0%)が最も高く、次いで「見守り」(40.2%)、「雪かき」(34.8%)、「ゴミ出し」(26.2%)、「買物」(17.1%)、「掃除」(15.9%)、「草むしり」(13.4%)、「外出同行」(12.2%)、「電球交換」(10.4%)の順となっています。

問8-(2) 介護が必要になった場合、近隣の人に頼みたいこと



○一方、近隣の人に頼みたくないことは、「着替え」(36.0%)が最も高く、次いで「季節用品の入替」(24.4%)、「調理」(17.7%)、「外出同行」(15.2%)、「掃除」(14.6%)、「買物」(11.0%)の順となっています。

問8-(3) 介護が必要になった場合、近隣の人に頼みたくないこと



## 9 山形市の施策について

### (1) 認知症予防への支援

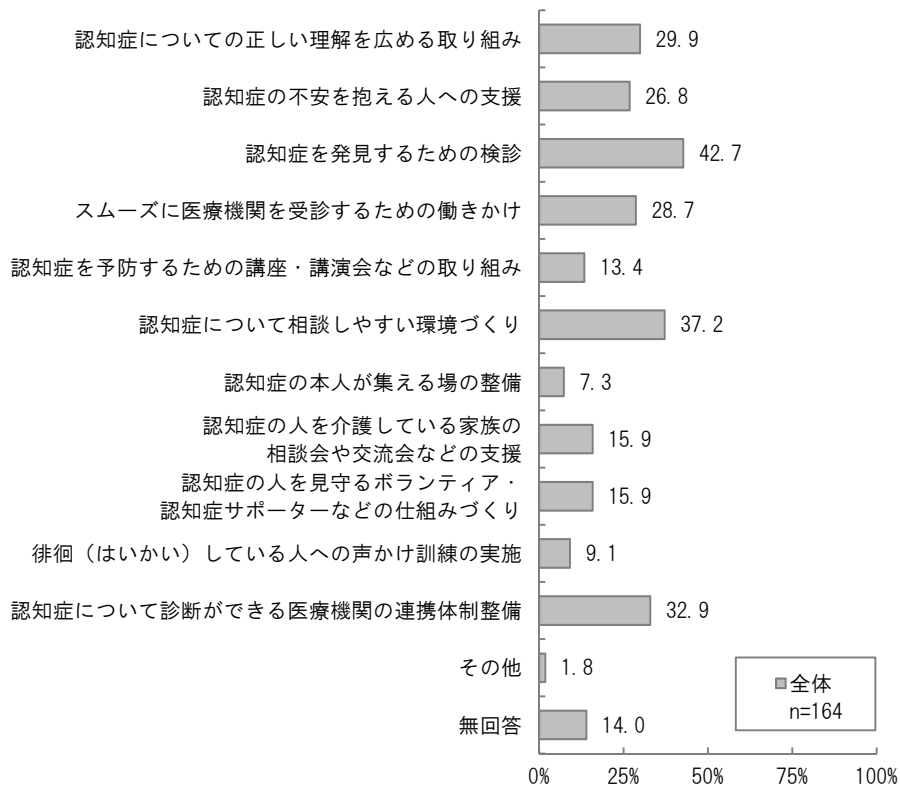
○要支援者の認知症ではないかと感じた場合、最初に相談したいところをみると、「かかりつけ医」(54.9%)が最も高く、次いで「ケアマネジャー(介護支援専門員)」(18.3%)、「認知症専門医(精神科・神経内科等)」(10.4%)となっています。

問9-(1) 認知症ではないかと感じた場合、最初に相談したいところ

全体 n=164	回答者数	割合
かかりつけ医	90人	54.9%
認知症サポート医	5人	3.0%
認知症専門医(精神科・神経内科等)	17人	10.4%
地域包括支援センター	8人	4.9%
ケアマネジャー(介護支援専門員)	30人	18.3%
民生委員・福祉協力員	3人	1.8%
介護サービス事業者	3人	1.8%
市役所などの行政機関	1人	0.6%
認知症の人と家族の会	0人	0.0%
認知症サポーター	0人	0.0%
薬局	0人	0.0%
その他	0人	0.0%
無回答	7人	4.3%

○認知症の早期発見・支援のために市が重点を置くべきことは、「認知症を発見するための検診」(42.7%)が最も高く、次いで「認知症について相談しやすい環境づくり」(37.2%)、「認知症について診断ができる医療機関の連携体制整備」(32.9%)の順となっています。

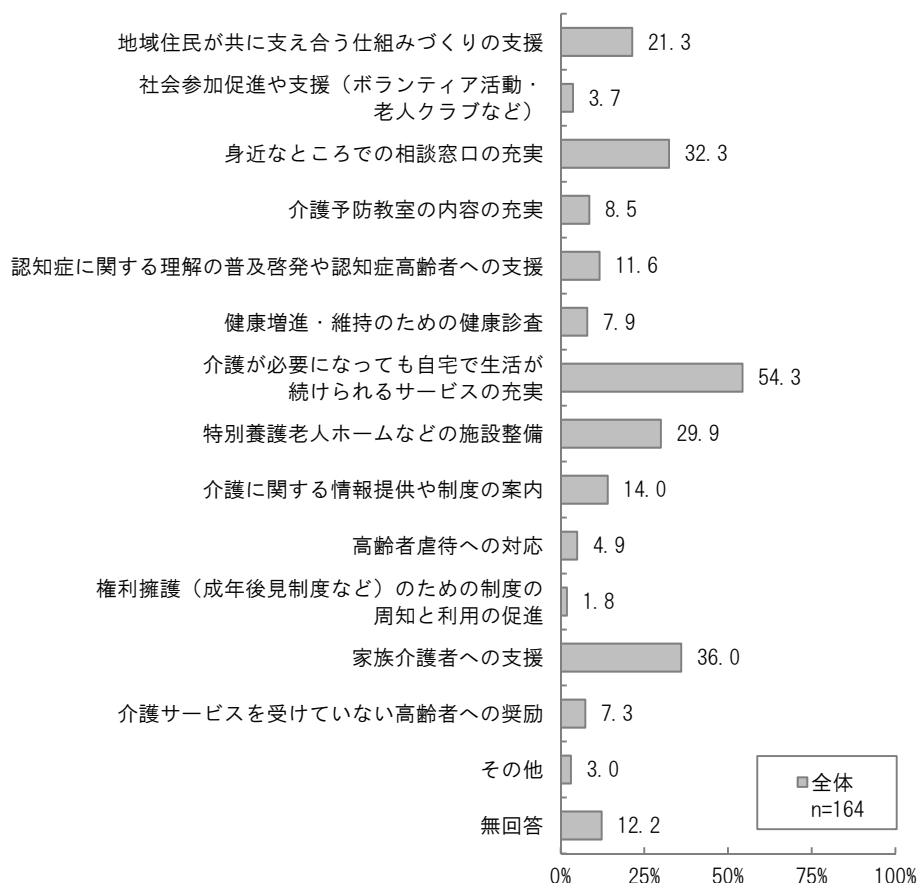
問9-(2) 認知症の早期発見・支援のために市が重点を置くべきこと



## (2) 高齢者保健福祉への取組

○要支援者の高齢者保健福祉について、市が取り組むべきことをみると、「介護が必要になっても自宅で生活が続けられるサービスの充実」(54.3%)が最も高く、次いで「家族介護者への支援」(36.0%)、「身近なところでの相談窓口の充実」(32.3%)、「特別養護老人ホームなどの施設整備」(29.9%)、「地域住民が共に支え合う仕組みづくりの支援」(21.3%)の順となっています。

問9-(3) 高齢者保健福祉について、市が取り組むべきこと

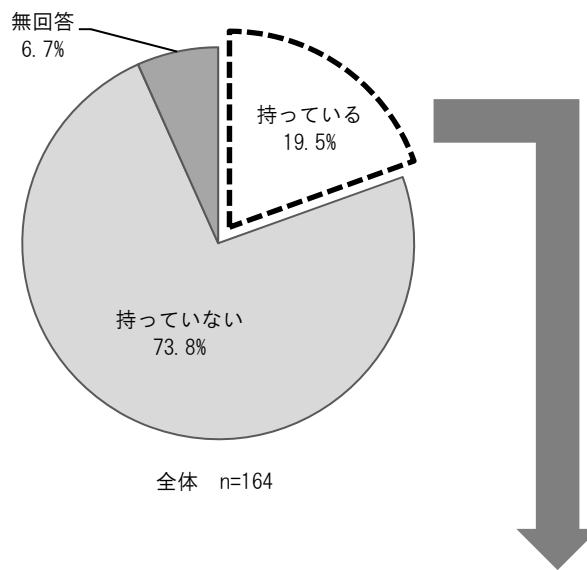


## 10 自動車の運転について

○要支援者の自動車の運転免許証の所持状況は、「もっている」方が 19.5%となっています。

○自動車の運転をやめたら日常生活で困ることをみると、「かかりつけ医への通院」(75.0%)が最も高く、次いで「食品や日用品の買物」(71.9%)、「総合病院への通院」(59.4%)、「金融機関の手続き」(46.9%)、「行政機関の手続き」「友人・親戚等との交流」(各 34.4%)、「衣料品などの買物」(31.3%)の順となっています。

問10-(1) 自動車の運転免許証を持っているか



問10-(1).① 自動車の運転をやめたら日常生活で困ること

